



## **Prime Collaboration Provisioning for Cisco Business Edition 6000 リリース 11.x ガイド**

初版：2017 年 02 月 21 日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



## 目次

### 準備 (Preparation) 1

#### 概念 1

#### アプリケーションの取得 3

#### 仮想マシンの要件 4

### インストール 5

#### 仮想アプライアンスのインストール 5

#### サービスのアクティブ化 5

#### アプリケーションへのログイン 6

### インフラストラクチャ設定 9

#### インフラストラクチャのプロビジョニング 9

#### インフラストラクチャ プロビジョニングの状態 9

#### デバイスの追加 10

#### インフラストラクチャ同期とユーザ同期 12

#### LDAP サーバの同期の設定 14

#### デバイスのプロビジョニングの削除 18

#### Cisco Jabber サービスの有効化 19

### ドメインおよびサービス エリアの設定 21

#### ドメインの追加 21

#### サービス エリアの追加 22

#### 電話番号ブロックの追加 25

#### ユーザ権限の追加 26

#### ユーザ権限とサービスの関連付け 27

#### ドメインの同期 28

#### インフラストラクチャ設定インスタンスの追加 29

### ユーザおよびユーザ サービスの設定 31

#### ユーザの追加 31

#### ユーザのサービスのオーダー 33

オーダーの処理	54
セルフケア ポータルの設定	57
Prime Collaboration Self-Care の概要	57
Self-Care アカウントの作成	58
バッチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化	59
Prime Collaboration Self-Care の開始	59
個人設定のカスタマイズ	59
電話およびエクステンション モビリティの設定	61
回線の設定	62
ユーザ設定	63
共通 Self-Care タスク	63
シングル ナンバー リーチの設定	65
Self-Care ユーザ移行スクリプト	66
バッチ プロビジョニング	67
バッチ プロジェクトの管理	67



## 第 1 章

# 準備（Preparation）

- [概念, 1 ページ](#)
- [アプリケーションの取得, 3 ページ](#)
- [仮想マシンの要件, 4 ページ](#)

## 概念

Prime Collaboration は次の概念を導入します。

### ユーザ

電話、ボイスメール、電子メールのような、プロビジョニングされたサービスを持つユーザ。

### ドメイン

単一の管理者によって管理される領域。各ドメインに、ドメイン管理者が存在します。ほとんどの BE6K の導入では、Standard Prime インストールの一環として単一のドメインがあります。複雑な Business Edition 6000 の導入で利用可能な Prime Collaboration Advanced（購入可能）では、複数のドメインを利用できます。

### ユーザの役割

IT 管理者がユーザ用にオーダーできる製品とサービスを制御します。ユーザ ロールは、複数のサービス エリアにまたがって機能します。

### サービス エリア

サービスエリアでオーダーしたサービスのサービスクラスを定義する論理パーティション。サービスエリアは、単一のコールプロセッサ（Unified Communications Manager）、メッセージプロセッサ（Cisco Unity Connection）およびプレゼンス プロセッサ（IM およびプレゼンス サービス）にリンクされます。ユーザ ロールおよびディレクトリ番号ブロック（DNB）は、サービス エリアに関連付けられます。サービス エリアは、サイトまたは物理的な場所にはば対応します。

## 例 1

ユーザロールタイプのエグゼクティブ、マネージャ、従業員、請負業者、および共有エリア（ロビーや会議室など）の電話機による単一サイトの顧客の導入。

次の表に、これらの概念をどのように定義するかの一般的な例を示します。

ユーザ権限	電話機	サービス
エグゼクティブ	88xx、DX80	電話機、回線、VM、プレゼンス、ボイスメールから電子メール、エクステンション モビリティ、SNR
マネージャ	88xx、DX70	電話機、回線、VM、プレゼンス、ボイスメールから電子メール、エクステンション モビリティ
従業員	78xx	電話機、回線、VM、プレゼンス、ボイスメールから電子メール
請負業者	7821	電話機、回線、VM、プレゼンス、ボイスメールから電子メール
会議室	7832	電話、回線
ロビー	78xx	電話、回線
ドメイン	場所 1 : Company1	
サービス エリア	ユーザ権限	DNB
San Jose	ロビー	408555XXXX-1310
RTP	ロビー、従業員、請負業者、会議室	919555XXXX-1300
Richardson	ロビー、エグゼクティブ、マネージャ	972555XXXX-1030

## 例 2

ユーザロールタイプのエグゼクティブ、マネージャ、従業員、請負業者、会議室、共有エリア（ロビーなど）の電話機による複数サイトの顧客の導入。



(注)

これは、東海岸を管理する管理者として1人、西海岸を管理する管理者として1人の複数の管理者と、各ドメインに複数のサイトがある複雑な導入の例です。

次の表に、これらの概念をどのように定義するかの一般的な例を示します。

ユーザ権限	電話機	サービス
エグゼクティブ	88xx、DX80	電話機、回線、VM、プレゼンス、電子メール、エクステンション モビリティ、SNR
マネージャ	88xx、DX70	電話機、回線、VM、プレゼンス、電子メール、エクステンション モビリティ
従業員	78xx	電話機、回線、VM、プレゼンス、電子メール
請負業者	7821	電話機、回線、VM、プレゼンス、電子メール
会議室	7832	電話、回線
ロビー	78xx	電話、回線
ドメイン	場所 1 : Company2、West CoastIT 管理者 : Bob	
サービス エリア	ユーザ権限	DNB
San Francisco	ロビー	415555XXXX-1310
Los Angeles	従業員、請負業者、会議室	310555XXXX-1300
Seattle	エグゼクティブ、マネージャ	206555XXXX-1030
ドメイン	場所 2 : Company2、East CoastIT 管理者 : Bill	
サービス エリア	ユーザ権限	DNB
New York	ロビー	646888XXXX-1497
Boston	従業員、会議室	617888XXXX-1490
Miami	エグゼクティブ、マネージャ	305888XXXX-1340

## アプリケーションの取得

Prime Collaboration Provisioning は Cisco BE 6000 サーバのデータストアにプリロードされています。また、Product Upgrade Tool (PUT) からプロビジョニングアプリケーションとライセンスをダウンロードすることもできます。PUT から発注するには、有効な契約が必要です。

## 仮想マシンの要件

Prime Collaboration で管理されるエンドポイント	CPU の数	CPU 予約	RAM	メモリ予約	NIC	ディスク容量
最大 2,500 個のエンド ポイント (小)	1	2 GHz	2 GB	2 GB	1 Gbps	90 GB





## 第 2 章

# インストール

---

- 仮想アプライアンスのインストール, 5 ページ
- サービスのアクティブ化, 5 ページ
- アプリケーションへのログイン, 6 ページ

## 仮想アプライアンスのインストール

Prime Collaboration Provisioning 仮想マシンを展開し、インストールするには、『*Installation Guide for Cisco Business Edition 6000* (Cisco Business Edition 6000 のインストール ガイド)』を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps11369/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps11369/prod_installation_guides_list.html)

Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを完全にインストールするには約 30 分かかります。

## サービスのアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager ならびに IM サーバおよび Presence Service サーバと連携する Cisco Prime Collaboration Provisioning の場合は、Cisco AXL Web サービスを両方のサーバでアクティブ化する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager でサービスを有効化するには、次のアクションを実行します。
- a) Cisco Unified Communications Manager の Web インターフェイスにログオンします。
  - b) [Navigation] > [Cisco Unified Serviceability] に移動し、[Go] をクリックします。
  - c) [Tools] > [Service Activation] をクリックします。

d) サイトの要件に応じて、次のサービスを有効にします。

- Cisco CallManager
- Cisco CTIManager
- Cisco エクステンション モビリティ
- Cisco TFTP
- Cisco AXL Web サービス
- Cisco DirSync

e) [保存 (Save) ] をクリックします。

**ステップ 2** 次のアクションを実行し、IM サーバおよびプレゼンス サービスを有効にします。

- a) IM およびプレゼンスの Web インターフェイスにログオンします。
- b) 画面右上で [Navigation] > [Cisco Unified IM and Presence Serviceability] に移動し、[Go] をクリックします。
- c) [Tools] > [Service Activation] を選択します。
- d) サイトの要件に応じて、次のサービスを有効にします。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco Sync Agent
- Cisco AXL Web サービス
- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco XCP Directory Service
- Cisco XCP Authentication Service

e) [保存 (Save) ] をクリックします。

---

## アプリケーションへのログイン

### 手順

---

**ステップ 1** PC でブラウザを開きます。

**ステップ 2** `http://<Prime Collaboration IP Address>` を入力します。  
Prime Collaboration のログイン ページが表示されます。

**ステップ 3** 初期設定時に指定したものと同一クレデンシャルを使用し、globaladmin としてログインします。

---







## 第 3 章

# インフラストラクチャ設定

---

- [インフラストラクチャのプロビジョニング, 9 ページ](#)
- [インフラストラクチャ プロビジョニングの状態, 9 ページ](#)
- [デバイスの追加, 10 ページ](#)
- [インフラストラクチャ同期とユーザ同期, 12 ページ](#)
- [LDAP サーバの同期の設定, 14 ページ](#)
- [デバイスのプロビジョニングの削除, 18 ページ](#)
- [Cisco Jabber サービスの有効化, 19 ページ](#)

## インフラストラクチャのプロビジョニング

[Infrastructure Configuration] ページでは、コール プロセッサおよびユニファイドメッセージ プロセッサのインフラストラクチャの設定を参照することができます。このページを使用して、構成時の設定を追加、編集、削除できます。



(注)

インフラストラクチャ設定機能は、Cisco Unified Communications Manager デバイスをベースとしたコール プロセッサと、Cisco Unity Connection のみをベースとしたユニファイドメッセージ プロセッサに適用されます。

## インフラストラクチャ プロビジョニングの状態

インフラストラクチャ設定要求は、インフラストラクチャ設定アクティビティを実行するときに使用されます。

インフラストラクチャ設定プロセスが取る状態は、次のとおりです。

- [追加未実行 (Uncommitted Add)] : 設定はローカルに作成されていますが、デバイス上には存在しません。
- [追加処理中 (Add in Progress)] : 保留中設定の処理が進行中であり、オーダーを通して設定が行われている途中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [追加失敗 (Add Failed)] : このオブジェクトに対する操作に失敗しました。
- [追加をスケジュール済み (Add Scheduled)] : 保留中の設定済みオブジェクトを処理するタスクのスケジュールが設定済みであり、実行待ちです。この状態では、変更を行うことはできません。
- [更新未実行 (Uncommitted Update)] : デバイス上に存在するオブジェクトがローカルでは変更済みですが、まだデバイスに送信されていません。
- [更新処理中 (Update in progress)] : 変更操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [更新失敗 (Updated Failed)] : 変更操作に失敗しました。
- [更新をスケジュール済み (Update Scheduled)] : デバイス上のオブジェクトを変更するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除未実行 (Uncommitted Delete)] : デバイス上に存在するオブジェクトに削除対象のマークが付いています。このオブジェクトの削除は、まだデバイスに対して要求されていません。
- [削除処理中 (Delete in progress)] : 削除操作がオーダーの一部として進行中です。この状態では、変更を行うことはできません。
- [削除失敗 (Delete Failed)] : 削除操作に失敗しました。
- [削除をスケジュール済み (Delete Scheduled)] : オブジェクトをデバイスから削除するための保留中設定が、タスクの一部としてスケジュールされています。この状態では、変更を行うことはできません。

## デバイスの追加

ユーザに対してサービスをプロビジョニングするには、デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する必要があります。

デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する際は、次の点に注意してください。

- デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加する前に、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection のデバイスが正しく設定されていることを確認します。
- Prime Collaboration Provisioning で汎用 IOS ルータを設定する方法は、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity デバイスの場合とは大幅に異なります。最大の違いは、一般的な IOS ルータは同期化されず、特定のドメインやサービスエリアには関連付けられないことです。

デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [デバイスのセットアップ (Device Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページで、[追加 (Add)] をクリックし、デバイスを Prime Collaboration Provisioning に追加します。
- ステップ 3** [デバイスの追加 (Add Device)] ウィンドウで、ドロップダウンリストから必要なアプリケーションを選択し、名前や IP アドレスなどの必須情報を入力します。
- (注) デバイス名に使用できる文字は、スペース、英数文字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (\_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、およびアットマーク (@) です。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Prime Collaboration Provisioning にデバイスが追加されます。ページの下部に 2 つのステータスメッセージが表示されます。1 つはデバイスの追加が成功したかどうかを示し、もう 1 つは [テスト接続 (Test Connection)] 上にあり、接続テストが成功したかどうかを示します。
- (注) Cisco Unity Connection 10.0 以上のバージョンを追加する場合は、Unity Connection 管理者とオペレーティング システム (OS) 管理者の両方のクレデンシャルを追加する必要があります。
- 

デバイスの詳細を表示するには、[クイックビュー (Quick View)] をポイントします。クイックビューでは、同期の開始、同期ログの表示、デバイスの接続テスト、Cisco Unified CM Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の相互起動を実行できます。

デバイスの詳細を更新または変更するには、[編集 (Edit)] をクリックします。

Prime Collaboration Assurance からデバイスをインポートするには、[インポート (Import)] をクリックします。[デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページに、Prime Collaboration Assurance 上のデバイスがリストされます (リストには管理対象状態のデバイスのみが表示されます)。インポートするデバイスを選択し、[選択したデバイスのインポート (Import Selected Devices)] をクリックします。

Prime License Manager および Deployment Manager は、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページから追加できます。これらのデバイスを追加すると、Prime License Manager と Deployment Manager のリンクが [管理 (Administration)] メニューに表示されます。Prime License Manager または Deployment Manager のログイン ページを相互起動するには、Prime License Manager または Deployment Manager のリンクをクリックします。



- (注) Prime Collaboration Provisioning には、License Manager と Deployment Manager のデバイスを 1 つだけ追加できます。別の Prime License Manager または Deployment Manager デバイスを追加しようとすると、エラー メッセージが表示されます。
-

## Cisco Unity Connection デバイスの操作

Cisco Unity Connection のクラスタリングとフェールオーバーをサポートするため、次の点に注意してください。

- Cisco Unity Connection クラスタ サーバペアを含む Cisco Unity Connection を追加する場合は、そのペアのパブリッシャ サーバだけを追加します。
- プライマリ Cisco Unity Connection がセカンダリ Cisco Unity Connection にフェールオーバーする場合、IP アドレスをセカンダリ デバイスに変更できます。その場合、Prime Collaboration Provisioning はフェールバックが発生する前にセカンダリ デバイスと通信します。

ネットワークに複数のロケーションがある場合は、Cisco Unity Connection サーバまたは Cisco Unity Connection クラスタのすべてのロケーションを、Prime Collaboration Provisioning に個々に追加します。

この設定で Cisco Unity を使用する場合、Cisco Unified Communications Manager ボイスメール ポートを設定します。

# インフラストラクチャ同期とユーザ同期

Prime Collaboration Provisioning では、次の 3 種類の同期が行われます。

- インフラストラクチャの同期：Prime Collaboration Provisioning で使用される、個々のユーザ固有ではないデバイスからすべてのオブジェクトを検出します。Prime Collaboration Provisioning がユーザ サービスを設定できるように、事前にデバイス内にインフラストラクチャ データが存在している必要があります。
- ユーザの同期：個々のユーザに関連するすべてのオブジェクトを検出します。
- ドメインの同期：ユーザの同期中に検出された既存のユーザをドメインに配置します。

インフラストラクチャ同期を使用して、デバイスのインフラストラクチャ データを同期します。インフラストラクチャ同期では、複数のユーザによって使用されるデバイス情報が取得されます。インフラストラクチャ設定製品とユーザを同期するには、次の手順を実行します。

## 手順

**ステップ 1** [デバイスのセットアップ (Device Setup)] を選択します。

**ステップ 2** 同期を実行するデバイスの [クイックビュー (Quick View)] をポイントします。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行します。

- インフラストラクチャ同期を実行するには、[インフラストラクチャ同期の開始 (Start Infrastructure Synchronization)] をクリックします。
- ユーザ同期を実行するには、[ユーザ同期の開始 (Start User Synchronization)] をクリックします。



同期の進行状況が、[同期ステータス (Synchronization Status)] の下の [クイックビュー (Quick View)] に表示されます。

**ステップ 4** [詳細ログの表示 (View Detailed Logs)] をクリックします。

同期ログが作成され、割り当てられなかったオブジェクトが表示されます。また、デバイスから不明な要素が取得された場合は、警告メッセージも示されます。このログは同期を実行するたびに上書きされます。

(注) 警告メッセージの「予期しない要素がスキップされました (Skipped unexpected element)」は無視してかまいません。このメッセージは、デバイスから送信された項目が Provisioning でサポートされていないことを示します。

インフラストラクチャ同期またはユーザ同期の状態が長時間変わらない場合は、Nice サービスが PCP で CLI (Root ユーザとしてログイン) 経由で実行されていることを確認してください。サービスが実行中であるかどうかをチェックするには、次のコマンドを実行します。

```
ps -aef | grep nice
```

Nice サービスが停止している場合は、サービスを再起動してから、インフラストラクチャ同期またはユーザ同期をやり直します。

アナログ電話を管理する場合は、ipt.properties ファイルを更新する必要があります。このファイルで、dfc.ipt.cisco.callmanager.analog\_phone\_support を Y に更新してから、ユーザ同期を実行します。ユーザ同期が完了してから、Provisioning を再起動する必要があります。

インフラストラクチャ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング インフラストラクチャ データがユニファイドメッセージプロセッサと同期します。

- **SubscriberTemplate** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージプロセッサの加入者テンプレート。
- **UnifiedMessagingFeatureSpecification** : Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および電子メール メッセージプロセッサのサービス クラス。

ユーザ同期を実行すると、Provisioning のユニファイドメッセージング ユーザ データがユニファイドメッセージプロセッサと同期します。

- **UMInfo** : ユーザのボイスメールおよび電子メール情報に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **VoiceMailInfo** : UMInfo および EmailInfo に関連する、Cisco Unity、Cisco Unity Connection、および Cisco Unity Express のユーザ。
- **EmailInfo** : VoiceMailInfo および UMInfo に関連する、Cisco Unity および Cisco Unity Connection のユーザ。



(注) IM and Presence 9.0 以上のバージョンは、Cisco Unified Communications Manager と統合されています。そのため、IM and Presence 9.0 以上のバージョンではユーザ同期が無効になっています。ユーザ情報は Cisco Unified Communications Manager から直接同期されます。

IM and Presence の場合、インフラストラクチャ同期を使用して、ユーザ設定インフラストラクチャデータを Provisioning と同期します。



(注) Cisco Unified Communications Manager をアップグレードしてからユーザ同期を手動で実行し、変更通知設定を同期する必要があります。

## LDAP サーバの同期の設定

Prime Collaboration Provisioning から LDAP サーバの同期を構成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2 [ドメイン (Domains)] ペインでドメインを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 3 [ドメイン設定 (Domain Configuration)] ページで、[デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページで設定したディレクトリ ソースを選択します。
- ステップ 4 設定ペインで、Prime Collaboration Provisioning がサーバから収集する情報を設定します。これらの設定は、ディレクトリ/ACS サーバから Prime Collaboration へのユーザの同期および認証に使用されます。
- ステップ 5 LDAP サーバでのすべての変更を Prime Collaboration Provisioning に同期させるには、以下を選択します。
  - [モード (Mode)] - 認証および同期 (Authentication and Synchronization)
  - [既存ユーザの詳細の更新 (Update existing user details)] - すべてのフィールド
  - [LDAPユーザ削除時のアクション (Action when LDAP users deleted)] - [ユーザのみ削除 (Delete user only)]
  - [ユーザ検索ベース (User Search base)] - ユーザ検索ベースを入力
    - Cisco Unified CM とは異なり、Prime Collaboration Provisioning はドメインで 1 つのユーザ検索ベースのみをサポートします。ただし、複数のユーザ検索のため複数のドメインを作成できます。
    - Cisco Unified CM で Provisioning UI を使用して LDAP ユーザを追加する場合は、Provisioning ドメインと CUCM のユーザ検索ベースは同じである必要があります。

- 同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter query for sync) : [全ユーザの同期 (Synchronize all users)]。これを行うには、[ドメイン LDAP フィルタ (Domain LDAP Filters)] サブペインの下に [編集 (Edit)] アイコンをクリックし、必要な情報を選択します。[保存 (Save)] をクリックします。

#### ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

**LDAP 同期のスケジュール設定と実行**：同期のスケジュールを設定するには、[LDAP 設定 (LDAP Settings)] ペインで、[同期間隔 (Synchronization Interval)] および [同期開始日 (Synchronization Start Date)] を設定します。

[ドメインの設定 (Domain Configuration)] ページの内容を保存したら、ドメインを選択して、[クイックビュー (Quick View)] をポイントします。次に、[LDAP 同期の開始 (Start LDAP Synchronization)] を選択します。

LDAP の同期が終わると、レポートが作成されます。このレポートには、同期中に実行できなかった操作がリストされます。LDAP サーバに入力されたデータの誤りやユーザ設定の誤りなどが原因で、操作が失敗する場合があります。

ドメインに関連付けられている LDAP サーバは削除できません。LDAP サーバを削除するために、ドメインから削除します。

次の表は、LDAP を設定するためのフィールドの詳細を示しています。

表 1：LDAP 設定フィールド

フィールド	説明
[モード (Mode)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認証のみ (Authentication Only) : LDAP サーバは、ユーザ認証にのみ使用されます。</li> <li>• 認証および同期 (Authentication and Synchronization) : LDAP サーバは、ユーザ認証とユーザ情報取得の両方に使用されます。</li> </ul>
[既存ユーザの詳細の更新 (Update Existing User Details)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべてのフィールド (All fields) : LDAP サーバでユーザ情報が変更されると、Provisioning でも同じ情報が更新されます。</li> <li>• 更新しない (Do not update) : LDAP サーバでユーザ情報が変更されても、Provisioning のユーザ情報は更新されません。</li> </ul>

フィールド	説明
[古い LDAP ユーザに対するアクション (Action for stale LDAP users) ]	<p>(注) 古い LDAP ユーザとは、ユーザ検索ベースまたはドメイン LDAP フィルタに一致しなくなっているユーザアカウントのことを言います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロビジョニングで変更を行わないでください (Do not make changes in Provisioning) : Prime Collaboration Provisioning 内の対応するユーザは削除されません。</li> <li>• ユーザを削除し、プロビジョニングと CUCM のサービスを残す (Delete user, but keep services in Provisioning and CUCM) : そのユーザは Prime Collaboration Provisioning および Cisco Unified Communications Manager で削除されます。</li> <li>• Provisioning および CUCM からユーザとすべてのサービスを削除する (Delete user and all services from Provisioning and CUCM) : そのユーザおよびサービスは デバイスと Prime Collaboration Provisioning で削除されます。ユーザが Cisco Unified Communications Manager の LDAP ユーザではない場合、そのユーザは Prime Collaboration Provisioning および Cisco Unified Communications Manager でも削除されます。ユーザが Cisco Unified Communications Manager の LDAP ユーザである場合、そのユーザは Cisco Unified Communications Manager で削除されません。</li> </ul>
[ユーザ検索ベース (User Search Base) ]	<p>ドメインのユーザ検索ベース。Provisioning は、Active Directory のベース以下のユーザを検索します。たとえば、CN=Users, DC=Cisco, DC=com となります。</p> <p>この検索ベースは LDAP 同期でのみ使用されます。</p> <p>Microsoft Active Directory サーバを使用している場合は、dsquery user コマンドを使用して完全なユーザ検索ベースをリストできます。</p> <p>(注) Prime Collaboration Provisioning はドメインあたり 1 つのユーザ検索ベースのみをサポートします。</p>

フィールド	説明
[フィールドマッピング (Field Mapping) ]	<p>特定の LDAP ユーザ フィールドに対応する、Cisco Unified Communications Manager 内のユーザ フィールドをリストします。Prime Collaboration Provisioning では、以下のフィールドのみ設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 連絡先電話番号 (Contact phone number) : 電話番号または ipPhone を選択します。</li> <li>• 連絡先電子メール (Contact email) : メールまたは sAMAccountName を選択します。</li> <li>• ユーザ ID (User ID) : LDAP サーバの以下のフィールドをユーザ ID にマッピングできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ employeeNumber</li> <li>◦ mail</li> <li>◦ sAMAccountName</li> <li>◦ telephoneNumber</li> <li>◦ userPrincipalName</li> </ul> </li> <li>• ディレクトリ URI (Directory URI) : mail、msRTCSIP-primaryuseraddress、または none を選択します。</li> </ul>
[同期のクエリーのフィルタ処理 (Filter Query for Synchronization) ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全ユーザの同期 (Synchronize all users) : すべてのユーザが同期されます。</li> <li>• 簡易クエリ (Simple query) : 以下のフィールドを組み合わせ、クエリを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ [ユーザ ID (User ID) ]</li> <li>◦ [部署名 (Department) ]</li> <li>◦ [連絡先電話番号 (Contact phone number) ]</li> <li>◦ [連絡先電子メール (Contact email) ]</li> <li>◦ 文字列の一部を指定して検索するには、アスタリスク (*) を使用します。</li> </ul> </li> </ul> <p>[詳細クエリ (Advanced query) ] : LDAP クエリは、次の例のように入力できます。</p> <p>(&amp;(sAMAccountName=johndoe)(department=Cisco*)(mail=john@cisco.com))</p>



(注) 自動サービス プロビジョニングの「IN」フィルタを使用すると、複数のクエリーを設定できます。次に例を示します。

- 複数の電話番号を取得するには、セミコロンを使用して検索文字列を区切ります。たとえば、4930;5930 などです。
- 複数の電話番号の組み合わせを取得するには、アスタリスクとセミコロンを使用して検索文字列を区切ります。たとえば、40105\*;40116\*;40127\* などです。
- 連絡先電話番号は、以下を使用できます。
  - +44\* など、検索条件の「+」記号
  - /+44\* など、検索条件の「/+」記号
- 連絡先電話番号の場合は、デリミタとしてカンマで複数の値を検索条件に入力する「IN」フィルタを使用し、「/+」記号を使用できます（たとえば /+44\*, /+55\*, /+33\* など）。
- 同様に、「IN」フィルタを使用すると、デリミタとしてカンマを使用して、LDAP サーバから複数のユーザを同期できます。たとえば、User1, User2, User3 などです。
- ワイルドカード (\*) は、フィルタのフィールドの先頭または末尾に使用できます。

同様に、「=」や「!=」の演算子をクエリーの設定に使用できます。たとえば、単一ユーザ ID を提供するとします。

- 「=」演算子を使用すると、LDAP サーバからそのユーザだけが同期されます。
- 「!=」演算子を使用すると、LDAP サーバからそのユーザだけが同期から除外されます。その他のすべてのユーザは同期されます。

ユーザ ID と \* を一緒に使用すると（User123\* など）、ID が User123 から始まるユーザ全員を取得します。

## デバイスのプロビジョニングの削除

Prime Collaboration Provisioning からデバイスを完全に削除するには、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページを使って削除する必要があります。デバイスを削除する場合は、次のポイントに注意してください。

- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- 同期の実行中でない。

これらの条件が満たされていない場合にデバイスを削除しようとする、ページにメッセージが表示されます。削除が完了するまで、アクティビティは実行しないでください。

- AAA サーバを削除する前に、それがドメインに割り当てられていないことを確認します。
- デバイス上に保留中のオーダーがないようにしてください。
- デバイスを削除する前に、システムに古いエントリが入るのを避けるために、ドメインの同期化を実行します。

デバイスを削除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- |        |   |
|--------|---|
| ステップ 1 | Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします。                       |
| ステップ 2 | [デバイスのセットアップ (Device Setup)] を選択します。                                    |
| ステップ 3 | [デバイスのセットアップ (Device Setup)] ページで、削除するデバイスを選択して [削除 (Delete)] をクリックします。 |
| ステップ 4 | 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックして削除を確定します。                                      |
- 

## Cisco Jabber サービスの有効化

Prime Collaboration Provisioning で、デバイスの Cisco Jabber サービスを有効にすることができます。Cisco Jabber サービスを使用すると、インスタントメッセージングやプレゼンスと連携させることができます。



- (注) Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager 9.1.1 以上のバージョンと、Cisco Unified Presence でのみ利用できます。

コール プロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にするには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- |        |  |
|--------|--|
| ステップ 1 | [デバイスのセットアップ (Device Setup)] を選択します。   |
| ステップ 2 | デバイスのクイック ビューにカーソルを合わせ、[UC サービス (UC Services)] タブ、[有効 (Enable)] の順にクリックします。  |
| ステップ 3 | [SIP プロファイル (SIP Profile)]、[サービスプロファイル (Service Profile)]、および [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] フィールドとサービス パラメータ情報を入力して、[適用 (Apply)] をクリックします。[オーダーの表示 (View Order)] をクリックすると、[ユーザレコード (User Record)] ページでオーダーの詳細を確認できます。Jabber サービスを有効にした日付が表示されます。 |
- (注) コール プロセッサの Cisco Jabber サービスを有効にした後は、編集も無効化もできなくなります。
-







## 第 4 章

# ドメインおよびサービス エリアの設定

- [ドメインの追加, 21 ページ](#)
- [サービス エリアの追加, 22 ページ](#)
- [電話番号ブロックの追加, 25 ページ](#)
- [ユーザ権限の追加, 26 ページ](#)
- [ドメインの同期, 28 ページ](#)
- [インフラストラクチャ設定インスタンスの追加, 29 ページ](#)

## ドメインの追加

ドメインとは、ユーザのグループです。グループごとにシステム ユーザを 1 名以上任命し、そのユーザにドメイン内のユーザに対するサービスの管理を任せることができます。また、ドメインにはルールまたはポリシーを設定できます。これらのルールとポリシーは、そのドメイン内のユーザのサービスに適用されます。ドメイン内の運用に共通のポリシーを適用することも可能です。

1 人のユーザが複数のドメインを管理できます（そのユーザに適切な承認権限が割り当てられている場合）。ユーザのすべてのサービスは、そのユーザを追加するときに指定したサービスエリアでプロビジョニングされます（ユーザを追加するには、[ユーザプロビジョニング（User Provisioning）] を選択します）。

ドメインを作成した後、新しいドメインにアクセスできるサービスエリアとユーザ権限を追加できます。サービステンプレートを作成し、サービスエリアとユーザ権限に割り当てることもできます。また、1 つのサービステンプレートを、サービスエリアとユーザ権限の複数の組み合わせに関連付けることも可能です。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] をクリックし、[ドメイン (Domains)] ページで新しいドメインを追加します。
- ステップ 3** [コールプロセッサ (Call Processors)]、[メッセージプロセッサ (Message Processors)]、[同期ルール (Synchronization Rules)]、[LDAP設定 (LDAP Settings)] などの必要なフィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。[名前 (Name)] フィールドにドメイン名を入力する必要があります。使用できる文字は、スペース、英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、および特殊文字 \_ - / : ; = ? @ ^ ' { } [ ] | ~ です。
- 

既存のドメインを編集するには、左ペインでドメインのリストを展開し、編集するドメインをクリックします。また、[すべてのドメイン (All Domains)] をクリックし、テーブルからドメインを選択して [編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

## サービス エリアの追加

サービス エリアを設定するときは、次の操作を実行できます。

- コール プロセッサと関連するオブジェクト (Cisco Unified Communications Manager ではルートパーティション、デバイス プールなど) を指定することにより、サービス エリアを対応するコール プロセッサ オブジェクトにマッピングします。同様に、サービス エリアをユニファイドメッセージ プロセッサとユニファイドプレゼンス プロセッサにマッピングします。
- サービス エリアのユーザ タイプを指定します (サービス エリアから製品をオーダーできるのは、サービス エリア内のユーザだけです)。  
ドメインルールの DefaultUserType に基づくデフォルトのユーザ権限は [従業員 (Employee)] です。
- サービス エリア ユーザの電話番号ブロックを作成します。
- 選択したコールプロセッサにプレゼンスプロセッサが関連付けられている場合に、ユニファイドプレゼンス プロセッサの設定にプレゼンス プロセッサを表示します。



- (注) サービス エリアをドメインに割り当てた後で、別のドメインに移動することはできません。また、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、またはユニファイドプレゼンス プロセッサをサービス エリアに割り当てた後で、それらを変更することもできません。
- 

サービス エリアを追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains) ] ペインで特定のドメインを展開し、[サービス エリア (Service Areas) ] をクリックします。
- ステップ 3** サービス エリアを作成するドメインを選択します。
- ステップ 4** [追加 (Add) ] をクリックします。
- ステップ 5** [サービスエリアの設定 (Service Area Configuration) ] ページで、必要なフィールドに入力して[保存 (Save) ] をクリックします。次の表に必須フィールドを示します。

既存のサービスエリアを編集するには、左ペインでサービスエリアのリストを展開し、編集するサービスエリアをクリックします。また、テーブルからサービスエリアを選択し、[編集 (Edit) ] をクリックする方法もあります。

表 2: サービス エリア設定のフィールド

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Config) ]	サービスエリアの共通のデバイス設定。[共通デバイス設定 (Common Device Config) ] では、次の設定を制御できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ソフトキー テンプレート (Softkey Template) ]</li> <li>• [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source) ]</li> <li>• [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source) ]</li> <li>• [ユーザ ロケール (User Locale) ]</li> <li>• [MLPP 通知 (MLPP Indication) ]</li> <li>• [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption) ]</li> <li>• [MLPP ドメイン (MLPP Domain) ]</li> </ul>
参照先	デバイスに割り当てられるロケーション。サービス エリアを追加する場合、開始ウィザードでドメインに関連付けられたいずれかのコール プロセッサを追加しているなら、このフィールドは任意です。
パーティション	サービス エリアのルート パーティション。これは、Cisco Unified Communications Manager のパーティションと同じです。
[デバイスプール (Device Pool) ]	サービス エリアのデバイス プール。

フィールド	説明
[音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References) ]	サービス エリアの音声ゲートウェイ参照。
[電子メールプロセッサ (Email Processors) ]	<p>Cisco Unity Connection に対してのみ使用可能で、Internet Message Access Protocol (IMAP) クライアントのサポート用に外部 Exchange Server と統合されます。</p> <p>Cisco Unity Connection で IMAP 用の Exchange Server を設定するには、Cisco Unity Connection システムで [システム設定 (System Settings) ] &gt; [外部サービス (External Services) ] &gt; [新規追加 (Add New) ] を選択し、必要なフィールドに入力します。</p>
[TTSが有効でない加入者 テンプレート (Subscriber Template without TTS Enabled) ]	ユニファイド メッセージ プロセッサのユーザに対してユニファイド メッセージングを無効にするために使用される加入者テンプレート。
[TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]	<p>ユニファイド メッセージ プロセッサのユーザに対してユニファイド メッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。</p> <p>CoS の TTS を有効にするには、Cisco Unity Connection で次の設定を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスを許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client) ] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features) ] の下) を選択します。</li> <li>• [高度な機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features) ] フィールドおよび [テキスト/スピーチ (TTS) を使用したExchange電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Exchange Email by Using Text to Speech (TTS)) ] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features) ] の下) を選択します。</li> </ul>
[TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled) ]	ユニファイド メッセージ プロセッサの加入者に対してユニファイド メッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。
[電話番号ブロック (Directory Number Blocks) ]	サービス エリアに割り当てられている電話番号ブロック。 <a href="#">電話番号ブロックの追加, (25 ページ)</a> を参照してください。

- [共通デバイス設定 (Common Device Config) ]、[ロケーション (Location) ]および[パーティション (Partition) ] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager にのみ適用されます。
- [TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled) ]、および [TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled) ] フィールドは、Unity および Unity Connection にのみ適用されます。

## 電話番号ブロックの追加

電話番号ブロック内の番号は、それらが作成される Cisco Unified Communications Manager に対して相対的です。Prime Collaboration Provisioning では、電話番号は Cisco Unified Communications Manager と同様に処理されます。

新しい電話番号ブロックを追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup) ] を選択します。
- ステップ 2** 左のセレクト ペインでドメインおよびサービス エリアを展開し、目的のサービス エリアを選択します。
- ステップ 3** [電話番号ブロック (Directory Number Block(s)) ] フィールドで、[行の追加 (Add Row) ] をクリックします。
- ステップ 4** 目的のフィールドに入力して、[保存 (Save) ] をクリックします。



(注) [最小長 (Minimum Length) ] フィールドは、プレフィックスを除く電話番号の最小桁数です。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。たとえば、Prefix = 408、First Number = 0、Last Number = 100、Minimum Length = 4 の場合、電話番号ブロックの範囲は 4080000 ~ 4080100 になります。

- 編集するには、電話番号ブロックを選択して [編集 (Edit) ] をクリックします。必要な変更を行って、[保存 (Save) ] をクリックします。
- 変更をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel) ] をクリックします。
- 電話番号ブロックを削除するには、[削除 (Delete) ] をクリックします。

## ユーザ権限の追加

Prime Collaboration Provisioning はユーザ志向のプロビジョニング製品であり、人間のユーザと、userID で定義されるオープンスペースの場所が必要です。これにより、共有エリアのユーザとデバイスを簡単に特定することができます。ユーザロールは複数の目的に使用できます。ユーザロールは、ポリシーを適用し、請負業者、役員、販売員といったさまざまなユーザタイプ向けに、注文可能な製品とサービスを制御します。これらは、オーダー時にオーダー管理者に表示される選択肢を制御するフィルタリングプロセスでも使用されます。また、ユーザロールの設定は、自動サービスプロビジョニング処理の際、特定のユーザタイプ向けに、オーダーされるサービスと適用されるサービステンプレートを決定します。管理者はさまざまなサービスレベルを定義するために、多数のユーザロールを作成できます。

デフォルトのユーザ権限は次のとおりです。

- [従業員 (Employee)] : 新しいユーザに割り当てられるデフォルトの権限です。



(注) デフォルトロールはドメインルールで設定されます。

[従業員 (Employee)] ユーザ権限は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせておく必要があります。[従業員 (Employee)] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、サービスオーダープロセスの間に必要なオプションが表示されなくなります。

- [エグゼクティブ (Executive)] : より多くのサービス設定を持つ追加権限です。
- [疑似 (Pseudo)] : Cisco Unified CM に関連するユーザのないエンドポイントのプロビジョニングに使用されます。[疑似 (Pseudo)] ユーザはコールマネージャに登録されておらず、名前の変更も削除も行えません。

最初にユーザを追加してから ([ユーザの追加](#), [31 ページ](#)) を参照)、ユーザに疑似ユーザ権限を割り当てます。

疑似ユーザは、電話と電話番号インベントリの管理を実行できます。

疑似ユーザには 1 つ以上のエンドポイントを関連付けることができます。たとえば、会議室は一つ以上のエンドポイントを持つ疑似ユーザとして、建物は数百のエンドポイントが関連付けられる疑似ユーザとすることができます。

これらのユーザ権限は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の各ドメインに存在します。ユーザ権限の各セットは、各ドメインで事前定義済みのユーザ権限を追加、削除、変更することでカスタマイズできます。

ユーザ権限を追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
- ステップ 3** 特定のドメイン ページの [ユーザ権限 (User Roles)] で、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザ権限の設定 (User Role Configuration)] ページで、ユーザ権限名、タイプ、ドメイン、回線、サービス、サービス バンドルの必須詳細情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- (注) ユーザ ロール名で有効な値は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アットマーク (@)、アンダースコア (\_) ですが、引用符 (")、山カッコ (< >)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセンテージ (%) を含めることはできません。
- ステップ 5** 続行するには [保存 (Save)] をクリックします。
- 

- ユーザ権限を設定するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [編集 (Edit)] をクリックします。
- ユーザ権限を削除するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [削除 (Delete)] をクリックして [OK] をクリックします。
- ユーザ権限クイック ビューには、ユーザ権限に対して選定されたドメイン、エンドポイントの数、サービス、サービス バンドルが表示されます。

## ユーザ権限とサービスの関連付け

特定のエンドポイントに権限が関連付けられているユーザだけが、そのサービスをオーダーできます。エンドポイントとサービス、個々のサービスのオーダーを作成するか、またはバンドルされたサービスをオーダーできます。表 3 : Provisioning のサービス、(36 ページ) を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
- ステップ 3** 選択したドメイン ペインの [ユーザ権限 (User Roles)] で [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** ユーザ権限の名前を指定し、目的のエンドポイント、回線、サービス、およびサービス バンドルと関連付けます。[エンドポイント (Endpoints)]、[サービス (Services)]、および [サービス バンドル (Service Bundles)] は必要な数だけ選択できます。

- (注) ユーザ権限の設定を変更するには、[ユーザ権限 (User Roles)] を選択します。特定のドメインの [ユーザ権限 (User Roles)] で、目的のユーザ権限を選択して [編集 (Edit)] をクリックします。

**ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

---

## ドメインの同期

ドメインの同期では、同期からデータを集約します。ドメイン同期の実行中にデバイスがアクセスされることはありません。

ドメインの同期中、Prime Collaboration Provisioning は以下を実行します。

- ユーザおよびユーザのサービスとプロビジョニングインベントリを同期し、新しいユーザを作成して、レコードを更新します。
- ユーザ アカウントを同期し、Prime Collaboration Provisioning を更新してユーザがログインできるようにします（ログインはセルフケアルールが有効の場合にのみ作成されます。『Cisco Prime Collaboration Provisioning - Standard および Advanced、11.x ガイド』の「[ビジネス ルールの説明](#)」を参照）。
- サービスをサービス エリアに関連付けます。
- Unity Connection または Unity Express の割り当てられたボイスメール電話番号を、Cisco Unified Communications Manager のボイスメール電話番号と同期させます。

ドメインを完全に同期するには、ドメイン内の各デバイスのインフラストラクチャとユーザの同期を実行してから、ドメインの同期を実行する必要があります。

次の手順を実行してドメインを同期させます。

### はじめる前に

同期ルールが設定されていないと、ドメインの同期を開始できません。

### 手順

---

**ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。

**ステップ 2** [ドメイン (Domains)] テーブルから、同期するドメインの [クイックビュー (Quick View)] をポイントし、[ドメイン同期の開始 (Start Domain Synchronization)] をクリックします。ドメインの同期が正常に開始されたことを示すポップアップが表示されます。クイック ビューの [前回の同期 (Last Synchronization)] フィールドに、同期のステータスが開始時刻および完了時刻とともに表示されます。

---



# インフラストラクチャ設定インスタンスの追加

インフラストラクチャ設定インスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択します。使用できるすべてのデバイスが左ペインにリストされます。
- ステップ 2** デバイスのインフラストラクチャ製品を表示するには、それぞれのデバイスを展開します。
- ステップ 3** 目的のインフラストラクチャ製品をクリックし、その製品を相互起動するか、ネイティブに起動します。
- 相互起動すると、そのデバイスの [検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。[新規追加 (Add New)] をクリックし、必要な情報を入力して [保存 (Save)] をクリックします。
  - インフラストラクチャ製品の一部 (10.0 よりも前のバージョン) はネイティブで開始されます。製品インスタンスを追加し、Provisioning 内で設定するには次の手順を実行します。
    - 1 [追加 (Add)] をクリックして、[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。
    - 2 [適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。

[適用 (Apply)] では、設定がただちにデバイスへ送信されます。[下書きとして保存 (Save as Draft)] では、設定がローカルにのみ保存されます。後でサービスをデバイスに送信するには、[適用 (Apply)] をクリックするか、インフラストラクチャ設定スケジューリング機能を使用します。

また、[下書きとして保存 (Save as Draft)] を選択すると、オブジェクトのプロビジョニング状態が [追加未実行 (Uncommitted Add)] になります。動作ステータスは非アクティブです。つまり、オブジェクトはまだデバイスに送信されていません。
- (注) [適用 (Apply)] をクリックすると、デバイスが再起動し、進行中のコールが予期せず終了します。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用にコピーするには、[コピー (Copy)] をクリックします。[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで、[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブをクリックして必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。[適用された設定 (Applied Configuration)] タブには、設定済みのインスタンスが表示されます。[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。インフラストラクチャ設定インスタンスが「copy of」というプレフィックス付きで保存されます。

ネイティブ起動用のインフラストラクチャ設定インスタンスを削除するには、次のいずれかを実行します。

- ただちに設定済みのインスタンスをデバイスから削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。
- オーダーを後でプッシュする場合は、[削除のスケジュール (Schedule Delete)] をクリックします。
- 設定済みのインスタンスがローカルに保存されて残っている場合は、[下書きの削除 (Delete Draft)] をクリックします。

オブジェクトのステータスは[削除未実行 (Uncommitted Delete)] になります。動作ステータスはアクティブです。

[下書きの削除 (Delete Draft)] を実行しても、他のインフラストラクチャ製品やユーザ サービスでそのインスタンスを引き続き使用できます。たとえば、あるルートパーティションに削除対象のマークが付いている場合も、そのルートパーティションは回線または電話製品やコーリングサーチ スペースで選択可能です。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用に編集するには、変更するインスタンスをクリックします。[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブで、必要な変更を行います。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。必要な情報を入力します。

[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックし、変更を保存します。



---

(注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されている設定値を消去するには、値として 0 を入力する必要があります。値を消去しただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内の設定は解除されません。

---



## 第 5 章

# ユーザおよびユーザ サービスの設定

- ユーザの追加, 31 ページ
- ユーザのサービスのオーダー, 33 ページ
- オーダーの処理, 54 ページ

## ユーザの追加

ユーザを追加するには、以下の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [ユーザ プロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザの追加 (Add User)] ウィンドウで、[ユーザ ID (User ID)]、[ドメイン (Domain)]、[名前 (Name)] を入力します。さらに、必要に応じて他のフィールドに値を入力します。  
特定のドメインまたはユーザ権限のクイック ビューを起動するには、ドメインやユーザ権限の選択時に、ドロップダウンメニューをクリックして、[クイックビュー (Quick View)] アイコンにマウスを移動します。
- ステップ 4** [保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning)] ドロップダウンで、次の操作を実行します。
  - 詳細を保存し、ユーザの [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページを開くには、[保存してプロビジョニングを開始 (Save and Begin Provisioning)] をクリックします。
  - 詳細を保存し、別のユーザを追加するには、[保存して追加を続行 (Save and Add Another)] をクリックします。
  - 詳細を保存して [ユーザの追加 (AddUser)] ウィンドウを閉じるには、[保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

- ユーザ ロールに基づいて自動プロビジョニング パラメータを選択した場合、詳細を保存してサービスを表示するには、[サービスを保存して表示 (Save and View Services)] をクリックします。

- (注)
- サービスが関連付けられているユーザを削除する場合は、ユーザを削除する前にサービスの関連付けを解除するように通知されます。
  - ユーザを追加するには、[インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] ページの [LDAP統合 (LDAP integration)] フィールドを [なし (None)] にする必要があります。
  - ユーザ ID は一意とし、大文字と小文字を区別する必要があります。使用できる文字は、英数文字 (A～Z、a～z、0～9)、アンダースコア (\_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、アポストロフィ (')、スペース ( )、およびアットマーク (@) です。
  - コールプロセッサのユーザ名を作成する場合、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字です。この上限を超えた状態でプロビジョニングすると、コールプロセッサからエラーメッセージが送信されます。
  - 疑似権限では、コールプロセッサでユーザが関連付けられていないエンドポイントをプロビジョニングできます。
  - ユーザの権限を選択する際は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせて、デフォルトまたは Employee ユーザ権限を設定しておく必要があります。デフォルトまたは Employee ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、従業員ユーザレコードに必要なオプションが記録されなくなります。
  - DefaultUserType ルールは、デフォルトとして設定するユーザロールを制御します。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、Employee ユーザ権限がデフォルトのユーザ権限として設定されます。Cisco Prime Collaboration Provisioning でドメインのデフォルトのユーザ権限名を更新する場合は、DefaultUserType ルールをそのドメインの新しいデフォルトの権限名に更新してください。
  - ユーザ名を変更しても、(エンドポイントや回線を以前のユーザ名でオーダーしている場合は) ユーザのエンドポイントや回線の説明フィールドは変更されません。
  - Cisco Unified Communications Manager の場合は、[名 (First Name)] および [姓 (Last Name)] のフィールドに入力できる文字の合計数は 30 文字になります。
  - ユーザにサービスが関連付けられていない場合は、ユーザの削除について確認を求めるメッセージが表示されます。
  - ユーザからサービスの接続が解除されても、実際にデバイス (プロセッサ) からサービスが削除されるわけではありません。Provisioning 内で接続が解除されるだけです。
  - この後にドメインの同期が実行されると、同期ルールに応じてユーザが再度作成され、サービスをユーザに関連付けることができます。

## [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] からの CUCM と Unity Connection の相互起動に関するリンク

Prime Collaboration Provisioning では、管理者は選択したユーザに対して、マネージャの設定とアシスタントの設定の相互起動を許可することができます。管理者は、Prime Collaboration Provisioning からユーザ、エンドポイント、および回線に関するリンク ページを相互起動できます。Manager と Assistant の設定を相互起動する場合は、UI にアクセスして、サーバで直接アクションを実行できます。シングルサインオンを使用すると、いくつかのアプリケーションを相互起動できます。

『Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide - Standard および Advanced, 11.x』の「[Prime Collaboration Provisioning のシングル サインオン](#)」セクションを参照してください。

ユーザ向けのボイスメールサービスをプロビジョニングする場合、ボイスメールサービスからの相互起動リンクは、[通知デバイス (Notification Devices)]、[代行内線番号 (Alternate Extensions)]、[グリーティング (Greetings)]、[プライベート同報リスト (Private Lists)] となります。

Manager の設定と Assistant の設定の相互起動リンクを表示するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ページで [ユーザ サービス (User Services)] ([ユーザ プロビジョニング (User Provisioning)] でユーザを選択) にマウス ポインタを移動し、[クイックビュー (Quick View)] アイコンをクリックします。

# ユーザのサービスのオーダー

すべてのサービスのオーダー作成は同じ基本手順に従います。

ユーザは必ずしもすべてのサービスにアクセスできるわけではありません。Cisco Prime Collaboration Provisioning はポリシー適用の形式を実装して、ユーザが割り当てられたロールに適したエンドポイントとサービスを取得できるようにします。オーダー時に表示されるサービスのリストは、次の項目によって異なります。

- ユーザに割り当てられているユーザ権限、およびユーザが利用できるドメインとサービスエリア。
- サービスエリア内で配信をサポートするリソースを利用できるかどうか（たとえば、Unified Messaging を提供するには、Cisco Unity または Cisco Unity Connection システムを利用できる必要があります）。
- Provisioning システムの設定。

サービスの依存関係は次のとおりです。

- 回線には既存のエンドポイントが必要です。
- ボイスメールおよび電子メールには既存の回線が必要です。
- ユニファイド メッセージングには電子メールが必要です。
- エクステンション モビリティ回線にはエクステンション モビリティ アクセスが必要です。

ユーザのサービスをオーダーするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** [ユーザ プロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザプロビジョニング (User Provisioning)] ページで、対象のユーザを選択します。
- ステップ 3** [サービスの詳細 (Service Details)] ページで [新規サービス (New Service)] をクリックします。
- ステップ 4** ドロップダウンリストからサービス エリアを選択します。マウス ポインタを [クイックビュー (Quick View)] アイコンの上に置くと、ドロップダウン リストにサービス エリアの情報が表示されます。
- ステップ 5** [続行 (Continue)] をクリックします。  
プロビジョニング可能なすべてのサービスが表示されます。表 3 : Provisioning のサービス, (36 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** プロビジョニングするサービスを選択し、[続行 (Continue)] をクリックします。  
(注) ユーザのリストにエンドポイントが表示されない場合は、指定したユーザのユーザ権限をエンドポイントに関連付ける必要があります。エンドポイントを追加しようとしたときに、エンドポイントが表示されない場合、ユーザ ロールがエンドポイントを許可していないか、またはこのサービス エリア内のユーザに対してエンドポイントをプロビジョニングできないことが原因です。ユーザ権限をエンドポイントに関連付ける方法については、ユーザ権限の追加, (26 ページ) を参照してください。
- ステップ 7** [サービスのプロビジョニング (Service Provisioning)] ページで、[オーダー入力 (Order Entry)] ウィザードに従ってサービスの必要情報を入力します (必須フィールドの詳細については、表 4 : [オーダーエントリ (Order Entry)] のフィールド, (47 ページ) を参照してください)。  
オーダーを作成する際は、次の点に注意してください。
- [<サービスタイプ>情報 (<Service Type> Information)] および [詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインには、選択したサービスの仕様が表示されます。
  - [詳細オーダー (Advanced Order)] または [管理者 (Administrator)] 承認権限が割り当てられているユーザは、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] ペインにアクセス可能です。ただし、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration)] を使用しなくても、オーダーを完了したりエンドポイントをプロビジョニングしたりすることができます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定をクリアするには、値として 0 を入力する必要があります。値を指定せずにフィールドを空白のままにしても、プロビジョニング属性の値はクリアできません。
- ステップ 8** [続行 (Continue)] をクリックしてオーダーを作成します。
- ステップ 9** [確認 (Confirm)] をクリックして [OK] をクリックします。[サービスの詳細 (Service Details)] ページにオーダー番号を表示できます。[プロビジョニング履歴 (Provisioning History)] ペインをチェックして、オーダー ステータスを確認します。  
グローバル検索オプション (ホームページの右隅にある検索) を使用して、ユーザ ID と姓、MAC アドレス、電話番号を検索できます。

- ユーザ ID と姓の検索では、英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、ハイフン (-)、下線 (\_)、ドット (.)、アットマーク (@)、スペース、アポストロフィを使用できます (例: AASJKUser006、AAS\*、AA\*、\*SJKUser006、3242#@!#####&@!\*@(3)、AANewRDUser00\*)。
- MAC アドレスの検索では、英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、ダッシュ (-)、ピリオド (.)、アンダースコア (\_) を使用できます (例: 0024C444C3C6、0024\*、\*24)。
- [電話番号 (Directory Number)] 検索では、英数字、ピリオド、アンダースコアを使用できません。電話番号では、+、?、()、-などの特殊文字を使用できます (例: +0000057、\+0000\*、\+\*、\*0000\*、\*57)。

- (注)
- グローバル検索オプションで MAC アドレスを使用して電話番号を検索する場合は、xxxxxxxxxxxx の形式を使用します。
  - 検索結果をより速く取得するため、検索文字列には最低3文字を入力することをお勧めします。

オーダーしたサービスのプロビジョニング属性を表示するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ページで目的のサービスをポイントし、[操作 (Actions)] リストの [表示 (View)] をクリックします。

オーダーしたサービスにユーザのメモを追加するには、[サービスの詳細 (Service Details)] ページで目的のサービスをポイントし、[操作 (Actions)] リストの [ユーザのメモ (User Notes)] をクリックします。

既存サービスのテンプレートを作成するには、クイックビューから [テンプレートの作成 (Create Template)] をクリックします。必要な詳細を入力して [テンプレートの作成 (Create Template)] をクリックします。すべての値が入力された、サービスのテンプレートが作成されます。

多数のサービスを展開している場合は、それらのアクティビティを1つのアクティビティにまとめることができます。Cisco Prime Collaboration Provisioning のバッチプロビジョニング機能を使用すると、複数のタイプのオーダーを含む単一のバッチを作成できます。また、種類が異なる複数のサービスを1つのバッチ操作で処理することもできます。

バッチプロジェクトを設定するには、[展開 (Deploy)] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)] を選択します。



- (注) サービスのプロビジョニング中に [セキュリティプロファイル (Security Profile)] のプロビジョニング属性を選択してエラーが発生した場合は、オーダーが正常に完了するように [保護デバイス (Protected Device)] オプションのチェックボックスをオフにします。クラスタとデバイスのセキュリティモードが Cisco Unified Communications Manager のクラスタ用に適切に設定されていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager のセキュリティパラメータの詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager Security Guide](#)』の「Cluster and Security Modes」の項を参照してください。



(注) 次のサービスは、ユーザ ロールにサービスが関連付けられるまで、オーダー向けに表示されません。

表 3 : *Provisioning* のサービス

サービス	説明
[モビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) ]	<p>現在選択されているコール プロセッサで、選択されているユーザのモビリティを有効にします。デフォルトのパラメータを使用してオーダーする場合は、次のプロビジョニング属性が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ] : [はい (True) ]</li> <li>• [モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access) ] : [はい (True) ]</li> <li>• [最大デスクピックアップ待機時間 (Max Desk Pickup Wait Time) ] : 1000 ミリ秒</li> <li>• [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit) ] : 4</li> <li>• [プライマリユーザデバイス (Primary User Device) ]</li> </ul> <p>このサービスは Cisco Unified Communications Manager 9.x 以降だけで利用できます。</p>
[プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ]	<p>コール プロセッサでユーザの Presence Server ライセンスを有効にして、プレゼンス メッセージングを更新できるようにします。サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。 (<a href="#">ユーザ権限の追加</a>, <a href="#">(26 ページ)</a> を参照)。</p>
[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ]	<p>コール プロセッサでユーザの Unified Personal Communicator ライセンスを有効にして、Cisco Unified Personal Communicator を使用できるようにします。これは、[プレゼンスクライアントを有効にする (Enable Presence Client) ] および [クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] のバンドルです。</p> <p>このサービスは、[プレゼンスを有効にする (Enable Presence) ] をオーダーする場合にのみ利用できます。</p> <p>サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。 (<a href="#">ユーザ権限の追加</a>, <a href="#">(26 ページ)</a> を参照)。</p>



<p>[拡張モビリティサービス (Enhanced Mobility Service) ]</p>	<p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティデバイスプロファイル、回線、ボイスメールを含みます。</p> <p>このバンドルでは、エクステンションモビリティ、回線、ボイスメールなどの標準プロビジョニングサービスを1つのオーダーで作成できます。サービスがユーザロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。(ユーザ権限の追加, (26 ページ) を参照)。</p>
<p>[拡張モビリティサービスとユニファイドメッセージング (Enhanced Mobility Service with Unified Messaging) ]</p>	<p>選択したコールプロセッサの選択したユーザ向けのエクステンションモビリティデバイスプロファイル、回線、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージングを含みます。</p> <p>サービスがユーザロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。(ユーザ権限の追加, (26 ページ) を参照)。</p>
<p>[クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ]</p>	<p>ユニファイドプレゼンスプロセッサで Unified Personal Communicator のユーザ設定を有効にします。[クライアントユーザ設定 (Client User Settings) ] は、[クライアントサービスの有効化 (Enable Client Service) ] または [プレゼンスサービス (Presence Service) ] などのバンドルサービスを通じてのみオーダーできます。</p> <p>サービスがユーザロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。(ユーザ権限の追加, (26 ページ) を参照)。</p>

<p>[SoftPhoneサポートを有効にする (Enable SoftPhone Support) ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パーソナル コンピュータと物理エンドポイントの併用（両方が同時に鳴ります）、または CTI ポート (Cisco Unified Communications Manager で定義されている仮想電話) の使用を有効化します。</li> <li>• 使用可能なすべてのコール プロセッサがすでに SoftPhone をサポートしている場合は、サービス リストに表示されません。使用可能な特定のコールプロセッサに対して有効なサービスエリアのリストが表示されます。サービスエリアに基づいてこのサービスを有効にできるのは、複数のサービス エリアが関連付けられていても Unified CM ごとに 1 回限りです。</li> <li>• オーダー時に、ユーザのコンピュータのサーバ名または IP アドレスを [関連付けられたPC (Associated PC) ] フィールドに指定します。</li> <li>• CTI ポートを使用する Cisco SoftPhone だけに適用されます。Cisco IP Communicator は Cisco Unified Communications Manager との通信にCTIポートを使用しませんが、MACアドレスを持つ物理エンドポイントとして機能します。Cisco IP Communicator をオーダーするには、物理エンドポイントをオーダーし、Cisco IP Communicator をエンドポイント タイプとして選択する必要があります。</li> <li>• Cisco Jabber for Desktop が Cisco Jabber for Desktop クライアント上のデスクトップ電話として機能するために必要です。</li> </ul>
<p>[拡張エンドポイントサービス (Enhanced Endpoint Service) ]</p>	<p>エンドポイント、回線、ボイスメールを含みます。回線はオーダーしたエンドポイントに自動的に関連付けられ、ボイスメールは自動的に回線に関連付けられます。</p>

<p>[エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] または [回線でのエクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access with Line) ]</p>	<p>ユーザが特定のエンドポイントタイプにログインして、自分のエンドポイントのデバイス プロファイルを適用できるようにします。このサービスは単独で使用できるか、または回線にバンドルされています。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Provisioning にコール プロセッサを追加するときに、コール プロセッサに対してオプションのエクステンションモビリティの詳細を入力した場合にのみ、オーダーに対して [エクステンションモビリティ (Extension Mobility) ] を使用できます。</p> <p>SIP 電話がサポートされているサービス エリアで [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] のオーダーを作成する際は、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、または 7975 の Cisco Unified IP Phone の場合にだけ、電話ボタン テンプレートを選択します。</p> <p>選択した電話ボタン テンプレートでエクステンション モビリティがサポートされていない場合は、オーダーが失敗します。</p> <p>また、[iPhone用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones) ] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DND オプション (DND Option) ]</li> <li>• [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] (設定専用属性)</li> <li>• [MLPP 通知 (MLPP Indication) ]</li> </ul> <p>[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access for iPhones) ] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービス テンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DND オプション (DND Option) ] - [コール拒否 (Call Reject) ]</li> <li>• [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert) ] - [無効 (Disable) ]</li> <li>• [MLPP 通知 (MLPP Indication) ] - [オフ (Off) ]</li> </ul>
<p>[エクステンションモビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で、デバイス プロファイルに対してオーダーされたディレクトリ番号または回線です。ユーザがすでに [エクステンションモビリティアクセス (Extension Mobility Access) ] を所有している場合にアップグレードとしてオーダーできます。</p>

[Cisco Jabber サービス (Cisco Jabber Service) ]	<p>Jabber サービスをオーダーできます。[Cisco Jabberサービス (Cisco Jabber Service) ]は、Cisco Jabber for Tablet、Cisco Jabber for Desktop、Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for BlackBerry、Cisco Jabber for iPhone に対してオーダー可能です。[Cisco Jabber サービス (Cisco Jabber Service) ]をオーダーページで表示するには、ユーザ ロールが必要です。</p> <p>ユーザの最初のサービスとして Cisco Jabber をプロビジョニングする場合、ユーザ サービス設定はオーダー ウィザードの一部にはなりません。ユーザ サービス設定を変更（ユーザを Unified CM IM および Presence で有効にする）する場合、Jabber サービスをユーザにプロビジョニングした後で、そのユーザの[サービス詳細 (Service Details) ]ページに移動し、ユーザ サービスにカーソルを置いて、アクション リストで[変更 (Change) ]をクリックします。</p>
[回線 (Line) ]	<p>[回線 (Line) ]サービスはエンドポイントの有無に関わらず、ユーザに対してプロビジョニング可能です。新しい[回線 (Line) ]サービスのプロビジョニングでは、出荷、割り当て、受領、または追跡（返品用）の手順は必要ありません。</p> <p>[回線 (Line) ]サービスの横にある[アップグレード (Upgrade) ]の指示は、既存のエンドポイント用に[回線 (Line) ]がオーダーされることを示します。</p> <p>コールプロセッサでは、回線の表示が 30 文字を超えることはできません。名と姓を組み合わせた文字が 30 文字を超えないようにしてください。この上限を超えた状態でオーダーを作成した場合、コールプロセッサからエラーが送信されます。サービス テンプレートを使用すると、文字数が 30 文字を超えないように制限する自動切り捨て機能を備えた、キーワードに基づいた自動設定を作成できます。</p> <p>[回線 (Line) ]サービスのエンドユーザの関連付けは自動的にプロビジョニングされます。詳細については、<a href="#">ユーザ権限の追加</a>、(26 ページ) を参照してください。</p>
[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ]	<p>共有[共有エンドポイントの回線 (Line on a Shared Endpoint) ]は、ユーザが同じ物理エンドポイントで独自の別回線を必要としている場合にオーダーします。このサービスをプロビジョニングすると、エンドポイントとそのすべての回線が各ユーザのレコードに表示されます。</p> <p>ユーザ レコード内で共有されているエンドポイントの横に、[共有 (Shared) ]アイコンが表示されます。</p>
[メッセージングサービス (Messaging Service) ]	<p>エンドポイント、回線、ボイスメール、電子メールで構成されます。</p>

[エンドポイント (Endpoint) ]	
--------------------------	--

関連付けられた回線または電話番号のないエンドポイントをオーダーします。回線または電話番号に関連付けることはできません。

SIP フォンでは、7911、7941、7942、7945、7961、7962、7965、7970、7971、7975 の Unified IP Phone に対してのみ [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] を有効にするため、[はい (Yes)] を選択します。

エンドポイント名のガイドラインは次のとおりです。

- Unified Personal Communicator :

- ユーザ名と一致している必要があります (UPC では、オーダーがプロビジョニングされた後に自動的にエンドポイント名に追加されます)。
- 大文字 (A ~ Z) または数字 (0 ~ 9) を含める必要があります。他の文字は無視されます。
- UPC の後に 12 文字を追加することができます。  
たとえば、ユーザ名が `john_jackson` の場合は、`JOHNJACKSON` と入力します。

- Cisco Jabber for iPhone :

- プレフィックス TCT を含める必要があります (これを入力しない場合は、Cisco Prime Collaboration Provisioning によって自動的に追加されます)。
- プレフィックスを含んで 15 文字未満にする必要があります。
- 含めることができるのは英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9) だけです。Cisco Prime Collaboration Provisioning は、エンドポイントに情報をプッシュする前に小文字を大文字に変換します。

- Cisco Jabber for Android :

- デバイス名は「BOT」で開始し、大文字のみを使用する必要があります。  
たとえば、ユーザ名が `tadams` であるユーザの BOT デバイスを作成する場合は、「BOTTADAMS」と入力します。
- プレフィックスを含んで 15 文字未満にする必要があります。
- ユーザ名には英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、アンダースコア (`_`)、ハイフン (`-`)、またはピリオド (`.`) を含めることができます。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CTI ポート : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9)、アンダースコア ( _ )、ハイフン ( - )、またはピリオド ( . ) を含める必要があります。</li> <li>• IP Communicator : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9)、アンダースコア ( _ )、ハイフン ( - )、またはピリオド ( . ) を含める必要があります。</li> </ul> <p>Client Services Framework : 1 ～ 15 文字の英数字 (A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9) を含める必要があります。</p> <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p>
[エンドポイントサービス (Endpoint Service) ]	<p>新しいエンドポイントと回線を追加します。</p> <p>[エンドポイントサービス (Endpoint Service) ] をオーダーする場合、回線の最大数は電話タイプの電話ボタン テンプレートによって異なります (電話ボタン テンプレートが使用可能な場合) 。</p> <p>(注) エンドポイント属性は、選択したエンドポイントタイプでサポートされる機能に基づいて表示されます。</p>
[リモート宛先プロファイル (Remote Destination Profile) ]	<p>ユーザ用の [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] をオーダーしてユーザの属性を設定し、シングルナンバー リーチ (SNR) をサポートする [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] を選択または設定できるようにします。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] では、オーナーの変更と交換の操作がサポートされません。</p> <p>サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。 (<a href="#">ユーザ権限の追加</a>, (26 ページ) を参照) 。</p>

<p>[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]</p>	<p>1 つの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] で、無制限の [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] をオーダーします。[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] は、回線の自動割り当てまたは選択されたタイプをサポートします。</p> <p>ユーザ間で [リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] を共有でき、同じ接続先を [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]、[回線 (Line) ]、および [モビリティアクセス回線の有効化 (Enable Mobility Access Line) ] で共有できます。この場合、回線のすべてのタイプが共有回線として表示されます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] では、[回線 (Line) ] サービスでオーダーするように [ボイスメール (Voice Mail) ] または [エクステンションモビリティ (Extension Mobility) ] をオーダーできます。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。 (<a href="#">ユーザ権限の追加</a>, <a href="#">(26 ページ)</a> を参照)。</p>
<p>[リモート接続先プロファイルサービス (Remote Destination Profile Service) ]</p>	<p>このコール プロセッサを共有するためにすべてのサービス エリアの [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] サービスを有効にします。また、[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ] を追加します。</p> <p>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] のオーダーは、ユーザ権限では可能ですが、疑似ユーザでは実行できません。</p> <p>サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。 (<a href="#">ユーザ権限の追加</a>, <a href="#">(26 ページ)</a> を参照)。</p>



<p>[シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service) ]</p>	<p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]、モビリティの有効化、および[リモート接続先プロファイル回線 (Remote Destination Profile Line) ]を設定します。</p> <p>デスクトップ電話でモビリティを動作させるには、次の手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [電話 (phone) ]および[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ]で、[回線 (Line) ]を共有するように設定します。</li> <li>• [リモート接続先 (Remote Destination) ]に使用される[ユーザID (User ID) ]を[オーナー (Owner) ]に設定します。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager でソフトキー テンプレートを作成して、これをデスクトップ電話に割り当てます。Cisco Prime Collaboration Provisioning では、ソフトキーのカスタマイズはサポートされていません。Cisco Unified Communications Manager で、テンプレートをカスタマイズする必要があります。</li> </ul> <p>サービスがユーザ ロールに追加されると、このサービスを注文できるようになります。(ユーザ権限の追加, (26 ページ) を参照)。</p> <p>(注) ユーザに対してモビリティサポートの有効化 (Enable Mobility Support) サービスをオーダー済みの場合は、そのユーザに対してシングルナンバー リーチ (Single Number Reach) サービスをオーダーできません ([ユーザプロビジョニング (User Provisioning) ] ページでは、そのユーザに対して [シングルナンバーリーチサービス (Single Number Reach Service) ] オプションが表示されません)。</p>
<p>[ユニファイドメッセージ (Unified Messaging) ]</p>	<p>すでに電子メールとボイスメールを所有している場合は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] 機能を追加するオーダーを作成できます。[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] 機能により、ボイスメールからの電子メールの取得と、電子メールからのボイスメールの取得が可能になります。</p> <p>Cisco Unity では、テキスト/スピーチ (TTS) 機能を有効化することになります。Cisco Unity Connection では、TTS 機能と Internet Mail Access Protocol (IMAP) 機能を有効化することになります。</p> <p>[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] サービスの横にある[アップグレード (Upgrade) ]の指示は、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] 機能を含めるように既存の電子メールとボイスメールがアップグレードされることを示します。</p>

<p>[ユニファイドメッセージング サービス (Unified Messaging Service) ] <sup>1</sup></p>	<p>[ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ] のオーダーには、回線、エンドポイント、ボイスメール、電子メール、ユニファイドメッセージング サービスが含まれます。</p> <p>ユーザが利用できるサービスのリストは、ユーザ権限と Provisioning のシステム設定に基づきます。必要なサービスを含めるようにこのリストを変更する場合は、Provisioning の管理者に問い合わせてください。</p>
<p>[ユーザ サービス (User Services) ]</p>	<p>コール プロセッサでユーザのプレゼンス サービス設定を有効にすることで、プレゼンス メッセージングを有効にします。</p> <p>[ユーザ サービス (User Services) ] を設定するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Provisioning にプレゼンス サーバを追加し、インフラストラクチャの同期を実行します。</li> <li>2 オーダーに使用するサービスエリアにプレゼンス サーバを追加します。</li> </ol> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ サービスは Cisco Unified Communications Manager 9.x 以降のバージョンで利用できます。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager 10.0 以上では、[ユーザ サービス (User Services) ] はオーダー可能なサービスとして使用できなくなります。サービスのオーダーを作成するとデフォルトで追加されます。</li> </ul>
<p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] (バンドル)</p>	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメールおよび電子メール (Voicemail and Email) ] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ] の指示は、ボイスメールと電子メールを含めるように [回線 (Line) ] サービスがアップグレードされることを示します。</p>
<p>[ボイスメール (Voicemail) ] (個別)</p>	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [ボイスメール (Voicemail) ] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[ボイスメール (Voicemail) ] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ] の指示は、ボイスメールを含めるように [回線 (Line) ] サービスがアップグレードされることを示します。</p>

<p>[電子メール (Email) ] (個別)</p> <p><a href="#">2</a></p>	<p>ユーザがすでに回線を所有している場合は、追加の [電子メール (Email) ] サービスのオーダーを作成します。</p> <p>[電子メール (Email) ] サービスの横にある [アップグレード (Upgrade) ] の指示は、電子メールを含めるように [回線 (Line) ] サービスがアップグレードされることを示します。</p>
---	--

- <sup>1</sup> Cisco Unity の [電子メール (Email) ] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details) ] ページの電子メール アドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。
- <sup>2</sup> Cisco Unity の [電子メール (Email) ] または [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service) ] をオーダーした後、[ユーザレコード詳細 (User Record Details) ] ページの電子メール アドレスに完全なドメイン情報が付加されるまでには初期遅延があります。完全な電子メールアドレスを表示するには、オーダー後にユーザの同期およびドメインの同期を実行する必要があります。

表 4: [オーダーエントリ (Order Entry) ] のフィールド

GUI 要素	説明
[関連付けられたPC (Associated PC) ]	SoftPhone のサポートで使用するコンピュータの名前 (DNS による解決が可能なもの) または IP アドレスです。
[電子メールID (Email ID) ]	電子メール ID を入力します。スペースを含めることはできません。
[表示名 (Display Name) ] (電子メール)	電子メールの [差出人 (From) ] フィールドで使用する名前を入力します。
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility) ]	[はい (Yes) ] または [いいえ (No) ] を選択します。
[エクステンション モビリティ回線 (Extension Mobility Line) ]	次のいずれかを選択します。[自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line) ] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。 [選択した回線 (Chosen Line) ] : ユーザが電話番号を指定します。電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。

<p>[回線タイプ (Line Type) ]</p>	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [自動割り当て回線 (Auto-Assigned Line) ] : システムが自動的に電話番号を割り当てます。自動割り当て番号は、オーダー プロセスの開始時に選択したサービス エリアから取得されます。</li> <li>• [選択した回線 (Chosen Line) ] : ユーザが電話番号を指定します。電話番号にダッシュやスペースを含めることはできません。管理者は共有回線に未使用の番号、またはユーザがすでに所有している番号を選択できます。</li> </ul> <p>回線が設定された後で、ページ右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。</p> <p>その後、[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] オプションで回線のプロビジョニング属性を設定できます。[回線のコピー (Copy Line) ] フィールドから回線を選択して [完了 (Done) ] をクリックし、同じエンドポイントで設定した回線のプロビジョニング属性をコピーすることもできます。</p>
<p>[電話番号 (Directory Number) ]</p>	<p>電話番号をフィールドに直接入力することも、[セレクト (Chooser) ] アイコンをクリックして電話番号を選択することもできます。</p> <p>[セレクト (Chooser) ] アイコンをクリックすると、[電話番号 (Directory Number) ] 検索ページが表示されます。[電話番号 (Directory Number) ] 検索ページを使用するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [電話番号 (Directory Number) ] 検索ページで、次の中から検索基準を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [電話番号 (Directory Number) ] : 検索する具体的な番号を入力します。</li> <li>• [使用可能なDN (Available DNs) ] : オンにすると、Provisioning データベース内の使用可能な電話番号がすべて表示されます。</li> <li>• [予約済みDN (Reserved DNs) ] : オンにすると、オーダーを作成するユーザ用に予約された電話番号が表示されます。</li> <li>• [DNブロック (DN Blocks) ] : オーダー対象のサービス エリアに設定された電話番号ブロックが表示されます。</li> </ul> </li> <li>2 [検索 (Find) ] をクリックします。検索結果が表示されます。</li> <li>3 対象の電話番号をクリックします。</li> </ol>

[回線の位置 (Line Position) ]	<p>オーダー処理中は、エンドポイントで使用可能な回線の位置のリストページが表示されます。回線の位置の横には、その回線の位置が使用可能であるかどうかが表示されます。</p> <p>回線の位置のページでは、次の操作が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 回線タイプの設定：対象回線の横の [未割り当て (Not Assigned) ] をクリックし、次のページで回線タイプを設定します。回線が設定された後で、ページの右側の保存アイコンをクリックして設定を保存します。</li> <li>• 回線の位置の変更：回線の位置の横にある上または下向き矢印キーを押します。</li> <li>• 複数の回線を設定する場合、最初の回線を設定した後にバックアップを取得してから次の回線を設定します。</li> </ul> <p>Extension Mobility アクセス回線では回線ポジションはサポートされません。</p>
[選択されているエンドポイント (Selected Endpoint) ]	リストからエンドポイントを選択します。
[MAC アドレス (MAC Address) ]	(任意) Prime Collaboration Provisioning Standard では、MAC アドレスまたはダミーの MAC アドレスを入力する必要があります。アナログエンドポイントの場合は、選択した音声ポートに基づいて MAC アドレスが自動的に生成されます。
[エンドポイント タイプ (Endpoint Type) ]	リストからエンドポイント タイプを選択します。
[プロトコル (Protocol) ]	プロトコルを選択します。エンドポイントは SCCP と SIP の両方をサポートできます。[プロビジョニング属性 (Provisioning Attribute) ] で設定されたデフォルトのプロトコルでプロビジョニングします。プロトコルを選択しない場合、デフォルト設定が選択されます。設定済みのサービステンプレートを適用した場合、そのテンプレート設定が使用されます。
[ターゲットエンドポイント (Target Endpoint) ]	リストから対象のエンドポイントを選択します。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template) ]	使用可能な電話ボタン テンプレートのリストです。
[サービス テンプレート (Service Template) ]	使用可能なサービス テンプレートのリストです。

[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ]	<p>アナログ音声ゲートウェイ参照を選択します。</p> <p>ユーザの同期を実行する前に、インフラストラクチャの同期を実行する必要があります。ユーザの同期において、同期されたアナログエンドポイントが IM には存在しない音声ゲートウェイ参照に関連付けられていた場合、その音声ポートインスタンスの作成および関連付けはスキップされます。その結果、Cisco Prime Collaboration Provisioning を使用してそのアナログエンドポイントを管理できなくなります。</p> <p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドは、ゲートウェイの説明と英数字の参照番号を含めるために拡張されます。音声ゲートウェイのインフラストラクチャサービスの設定中にゲートウェイの説明が入力されると、その説明が [アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドに表示されます。</p>
[名前 (Name) ]	[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の名前が表示されます。
[説明 (Description) ]	[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の説明が表示されます。
[選択されているリモート接続先プロファイル (Selected Remote Destination Profile) ]	選択された [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile) ] の名前が表示されます。
[サービス エリア (Service Area) ]	<p>使用可能なサービス エリアのリストです。</p> <p>[サービスエリア (Service Area) ] にユニファイドメッセージプロセッサとして Unity Connection が設定されており、Unity Connection に外部電子メールサーバがない場合は、Provisioning で [電子メール (Email) ] のオーダーを行う際に、オプションとして [サービスエリア (Service Area) ] が表示されません。</p>
[ユニファイドメッセージ (Unified Messaging) ]	[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging) ] を有効にできる、使用可能な電子メールのリストです。

[ダミーMACアドレスの使用 (Use Dummy MAC Address) ]	<p>Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) 電話に使用されます。このチェックボックスをオンにすると、Provisioning はシステムで一意的なダミー MAC アドレスを持つ電話を作成します。</p> <p>TAPS 電話を Cisco Unified Communications Manager でプロビジョニングし、実際の MAC アドレスに更新した後、Provisioning でユーザとドメインの同期を実行する必要があります。それによって、Provisioning 内のダミー MAC アドレスが実際の MAC アドレスに更新されます。</p> <p>ダミーのエンドポイントがオーダーされた後の変更オーダーやキャンセルオーダーでは、ユーザやドメインの同期は必要ありません。</p>
[ボイスメールエイリアス (Voicemail Alias) ]	<p>ボイスメールのエイリアスを入力します。ボイスメールは Cisco Unity Connection でのエイリアスで識別されます。エイリアスはボイスメールをオーダーしたユーザ ID と同じとすることが可能です。</p>
[ボイスメール表示名 (Voicemail Display Name) ]	<p>ボイスメールの表示名を入力します。</p>
[音声ポート (Voiceport) ]	<p>[アナログ音声ゲートウェイ参照 (Analog Voice Gateway Reference) ] フィールドに基づいて、該当する音声ポートが設定されます。占有されているポートおよび使用可能なポートのリストを表示できます。オーダー用に選択できるのは使用可能なポートだけです。</p>
[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ]	<p>オーダーしたサービスの使用可能なプロビジョニング属性がリストされます。これにより、発注するときにプロビジョニング属性を設定することができます。[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] オプションの横のプラス記号 (+) をクリックし、このペインを展開します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されているプロビジョニング属性の値の設定を解除するには、値として 0 を入力する必要があります。値をクリアしただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内のプロビジョニング属性は解除されません。</p> <p>[詳細オーダー設定 (Advanced Order Configuration) ] は、[詳細オーダー (Advanced Ordering) ] 承認権限が割り当てられているユーザだけが使用できます。</p>
[予約済みのエンドポイントを選択する (Choose a reserved endpoint) ]	<p>予約済みのエンドポイントがリストされている検索ページを開きます。予約済みのエンドポイントは特定のユーザのために予約されています。</p> <p>(注) プロビジョニング中にエンドポイントの MAC アドレスまたはダミー MAC アドレスを入力します。</p>

[エンドポイントのコ ピー (Copy endpoint) ]	
------------------------------------	--



ユーザ権限でサポートされているシステムのエンドポイントがすべてリストされている検索ページを開きます。エンドポイントをコピーして、既存のエンドポイントと同じ設定で新しいエンドポイントをプロビジョニングすることができます。

設定をコピーするには、検索ページでエンドポイントを選択して [OK] をクリックし、エンドポイントの設定を新しいエンドポイントにコピーすることを確認します。

この機能を使用できるのは、[詳細オーダー (Advanced Ordering)] 権限を持つユーザだけです。

グローバルアクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、管理対象のエンドポイントと管理対象外のエンドポイントを含めた、ユーザがオーダー可能なすべてのエンドポイントをコピーできます。

ドメイン アクセスを行うことができる場合は、エンドポイントが同じコールプロセッサに属していれば、ユーザがオーダー可能であり、さらにユーザが管理可能なドメイン内にある管理対象エンドポイントだけをコピーできます。

これは、各エンドポイントに固有の設定が存在するため、すべての設定が新しいエンドポイントにコピーされるわけではないからです。次の設定は新しいエンドポイントにコピーされません。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [MAC アドレス (MAC Address)]
- [エンドポイントの説明 (Endpoint Description)]

エンドポイントがコピーされても、サービスは新しいエンドポイントにコピーされません。たとえば、回線、ボイスメール、電子メールがエンドポイントに存在する場合、これらは新しいエンドポイントにコピーされません。さらに、エンドポイントに関連付けられている設定専用の属性もコピーされません。

[エンドポイントのコピー (Copy endpoint)] を使用してコピーできるのは、オーダーの作成時に設定されたプロビジョニング属性だけです。

コピーされたエンドポイントの Cisco Unified Communications Manager のバージョンで属性がサポートされない場合、またはコピーされたエンドポイントのタイプで属性がサポートされない場合、その属性は新しいエンドポイントでクリアされます。

アナログ電話のみ、別のアナログ電話にコピーすることができます。IP Phone をアナログ電話にコピーすることはできません。

エンドポイントをコピーする場合、追加オーダー時に設定されたプロビジョニング属性はコピーされるだけです。

	<p>オーダーが完了すると、Cisco Unified Communications Manager で、[共通設定の上書き (Overriding Common settings)] チェックボックスがオンになります。つまり、新しいエンドポイントのデフォルト属性は変更されています。</p>
<p>[オーダー可能な Cisco Jabber サービス (Orderable Cisco Jabber Services)]</p>	<p>Cisco Jabber サービスは、Cisco Unified Communications Manager で Jabber を有効にした場合のみオーダー可能です。Jabber for a Cisco Unified Communications Manager を有効にするには、[デバイスのセットアップ (Device Setup)] を選択します。デバイスのクイック ビューにカーソルを合わせ、[UC サービス (UC Services)] タブをクリックします。</p> <p>リストから Jabber サービスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Jabber for Tablet</li> <li>• Cisco Jabber for iPhone</li> <li>• Cisco Jabber for Desktop</li> <li>• Cisco Jabber for Blackberry</li> <li>• Cisco Jabber for Android</li> </ul>

## オーダーの処理

ユーザのオーダーの送信が完了すると、オーダーが承認されて出荷されます。これらの手順は、Provisioning システムがどのように設定されたのかに応じて、自動的に実行される場合や、ユーザによる処理が必要になる場合があります。

オーダー処理の段階では、4 つのアクティビティがユーザに割り当てられる可能性があります。これらのアクティビティは、ドメインに対して設定されたルールに基づいて割り当てられます。ルールの詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide - Standard* および *Advanced, 11.x*』の「[ドメイン同期のビジネス ルール](#)」セクションを参照してください。

- オーダーの承認：プロビジョニングの実行にはオーダーの承認が必要です。オーダーを拒否することもできます。このユーザには [承認 (Approval)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、次のルールによって制御されます。
  - IsAuthorizationRequiredForAddOrder
  - IsAuthorizationRequiredForChangeOrder
  - IsAuthorizationRequiredForCancelOrder
- 割り当て：MAC アドレスをエンドポイントに割り当てます。このユーザには [割り当て (Assignment)] 権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては、PhoneAssignmentDoneBy ルールによって制御されます。

- 出荷：オーダーを出荷します。このユーザには [出荷 (Shipping)] 承認権限が割り当てられている必要があります。この割り当ては PhoneShippingDoneBy ルールによって制御されます。
- 受領：[受領 (Receiver)] ユーザ権限を持つユーザが実行します。オーダーしたエンドポイントを受領したことを示します。この割り当ては PhoneReceiptDoneBy ルールによって制御されます。



---

(注) Provisioning 管理者は、これらのアクティビティの割り当て方法を設定できます。

---





## 第 6 章

# セルフケア ポータルの設定

- [Prime Collaboration Self-Care の概要, 57 ページ](#)
- [Self-Care アカунツの作成, 58 ページ](#)
- [バツチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化, 59 ページ](#)
- [Prime Collaboration Self-Care の開始, 59 ページ](#)
- [個人設定のカスタマイズ, 59 ページ](#)
- [Self-Care ユーザ移行スクリプト, 66 ページ](#)

## Prime Collaboration Self-Care の概要

Prime Collaboration が提供する Self-Care ポータルでは、サブスクライバがユーザ名、パスワード、プライマリユーザデバイスなどの環境設定を制御できます。Self-Care ポータルを使用して、自分のアカウントやサービスを更新することができます。Self-Care 機能によって、回線設定の変更、サービスの管理、ボイスメールボックスとボイスメール PIN の追加とリセット、電話オプションの設定が可能になります。Self-Care ポータルは、複数の Cisco Unified CM クラスタ、Unity Connection クラスタと IM&P クラスタ全体のユーザサービスをカバーします。



(注)

Cisco Unified Communications Manager が 2 名以上のユーザ間で共有されているときに、1 名以上のユーザが LDAP を使用している場合は、Cisco Unified Communications Manager のバージョンにかかわらず Prime Self-Care が使用されます。

Prime Collaboration Self-Care を有効にするには、[Self-Care アカウンツの作成, \(58 ページ\)](#) を参照してください。

## Self-Care アカウントの作成

Self-Care アカウントはスタンドアロン（Assurance と Provisioning で別々のログインを使用）またはコンバージド（シングル サインオンで Assurance と Provisioning の両方を利用可能）の Prime Collaboration Provisioning で作成できます。作成するユーザごとに Self-Care を有効または無効にできます。

Prime Collaboration Provisioning では、Self-Care アカウントを作成できます。作成するユーザごとに Self-Care を有効または無効にできます。



(注)

- Self-Care 権限を割り当てるには、新しいドメインを作成する際に CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。CreateSelfCareAccounts ルールは、デフォルトで無効になっています。
- Self-Care Migration Utility を実行して、既存のドメインの Self-Care 権限を割り当てることもできます。これにより、既存のユーザの Self-Care 権限が有効になります。詳細については、[Self-Care ユーザ移行スクリプト](#)、[\(66 ページ\)](#) を参照してください。
- [SelfCareUser] チェックボックスは、CreateSelfCareAccounts ルールが有効な場合にのみ使用できます。
- ユーザの作成後、そのユーザは、globaladmin または domain-admin がアカウントパスワードを変更した後に限り、Self-Care にログインできるようになります。デフォルトでは、ユーザのパスワードは空です。[DefaultCUPMPassword] データ フィールドでデフォルトのパスワードを指定し、[有効 (Enabled)] を [はい (true)] に設定して、デフォルトのパスワードを設定します。
- ユーザ ドメインが Active Directory で認証されると、セルフケア ログインはそのユーザ ドメインに定義された AD サーバを使用します。

ユーザの Self-Care アカウントを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [ユーザ プロビジョニング (User Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの追加 (Add User)] をクリックして、[Prime Collaboration Self-Careを有効 (Enable Prime Collaboration Self-Care)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** 必要なユーザ情報を入力して保存します。

# バッチ プロビジョニングを使用した Self-Care の有効化と無効化

新しいユーザの作成時に、バッチ プロビジョニングを使用して Self-Care を有効にできます。Self-Care をユーザに対して有効にするには、バッチ操作ファイルで承認権限を SelfCareUser として提供します。

バッチ プロビジョニングを使用して、既存ユーザの Self-Care 権限の有効または無効を切り替えることもできます。有効にする場合は SelfCareUser として承認権限を提供し、無効にする場合はバッチ操作ファイルで何も提供しません。



(注) Self-Care アカウントを作成するには、ドメインに対して CreateSelfCareAccounts ルールを有効にする必要があります。

バッチ プロビジョニングの詳細については、[バッチ プロジェクトの管理](#)、(67 ページ) を参照してください。

## Prime Collaboration Self-Care の開始

ユーザ権限に応じて Self-Care を開始できます。



(注) IE 10 を使用している場合、Self-Care ポータルを正常に機能させるには [標準 (Standards)] モードを選択する必要があります。

Self-Care 権限だけを持つユーザは、ログイン後にセルフケア ポータルが表示されます。

### 手順

**ステップ 1** ブラウザで `http://<provisioning-ip>/cupm/selfcareuser/Login` と入力します。

**ステップ 2** Self-Care クレデンシャルを使用してログインします。  
ユーザには Self-Care 権限しかないため、アクセスできるのは Self-Care メニューだけです。このようなユーザは Provisioning メニューを利用できません。

## 個人設定のカスタマイズ

Self-Care を使用すると、次の電話の用途に関して、個々の属性や個人の初期設定を設定できます。

- スピードダイヤル番号、サイレント機能のオプション、および保留音の設定などの電話オプション
- エクステンション モビリティとシングル ナンバー リーチのオプションを設定できる、プロファイルのオプション
- コールの転送、発信者 ID、通知など、特定の電話回線のオプション
- パスワード、暗証番号 (PIN) など、電話のユーザに関するユーザ オプション

/opt/cupm/sep/ipt.properties ファイルを更新して、Self-Care ポータルの [電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] に表示される機能の表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、[電話の設定 (Phone Settings)] の機能を設定する場合は、次のように入力します。

エンドポイントの機能を表示するには、Prime Collaboration Provisioning UI で [管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] を選択してください。

```
enabled features for Phone Settings should be provided as follows:
General,SpeedDials,DoNotDisturb,Locale,MusicOnHold,Others
dfc.ipt.selfcare.phone.features=General,SpeedDials,DoNotDisturb,Locale,MusicOnHold,Others#
```



(注) ipt.properties ファイルを更新するには、ルートユーザとしてログインする必要があります。変更を有効にするためには、cupm サービスを再起動する必要があります。

Self-Care オプションを設定するには、次の手順を実行します。

## 手順

**ステップ 1** ブラウザで次を入力します：http://<provisioning-ip>/cupm/ipt/selfcare/home.html。

**ステップ 2** ユーザ名とパスワードを入力します。

Self-Care ポータル画面が表示されます。Self-Care ポータル画面は、次の要素で構成されます。

- 電話カルーセル：（画面左下の）電話カルーセルには、設定可能な電話とサービスプロファイルのアイコンがあります。アイコンのいずれかの横側をクリックすると、追加の電話またはプロファイルを表示できます。
- メイン メニュー：（電話カルーセル右側の）メイン メニューのオプションは、[電話の設定 (Phone Settings)]、[回線の設定 (Line Settings)]、および [ユーザ設定 (User Settings)] です。電話カルーセルで選択した内容に応じて、[電話の設定 (Phone Settings)] オプションは、[エクステンションモビリティの設定 (Extension Mobility Settings)] または [シングルナンバーリーチの設定 (Single Number Reach Settings)] に変化します。
- 設定エリア：選択したメイン メニューの設定可能なカテゴリが次に表示されます。[スピードダイヤル (Speed Dials)] などのカテゴリをクリックすると、画面の右側に設定可能なオプションが表示されます。



**ステップ 3** 電話カラーセルで、設定する電話またはプロフィールを選択します。

**ステップ 4** [回線の設定 (Line Settings)] メニューで、設定するオプションに対応する適切な回線を選択していることを確認します。

Self-Care ポータルで設定可能なオプションは次のとおりです。

- [電話機またはエクステンション モビリティ設定 (Phone or Extension Mobility Settings)] の設定
- [シングル ナンバー リーチの設定 (Single Number Reach Settings)] の設定
- [回線の設定 (Line Settings)] の設定
- [ユーザ設定 (User Settings)] の設定

## 電話およびエクステンション モビリティの設定

次の表に、Self-Care を使用して実行できる電話とエクステンション モビリティの設定を示します。

表 5: 電話およびエクステンション モビリティの設定

設定	説明	手順
一般	電話機の MAC アドレスを更新し、ボイスメールボックスのロックを解除します。	[電話の設定 (Phone Settings)] > [MAC アドレス (MAC Address)] を選択し、電話の有効な MAC アドレスを入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
スピードダイヤル	スピードダイヤル用の電話番号を追加します。  スピードダイヤルの間隔を空けるには、数字の間にカンマを追加します。任意の数のカンマを追加できます。カンマ 1 個あたりのデフォルトの遅延は 2 秒間です。	[電話の設定 (Phone Settings)] > [スピードダイヤル (Speed Dials)] を選択し、[追加 (Add)] をクリックします。必要な情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
サイレント	[サイレント (Do Not Disturb)] 機能を有効または無効にします。  [サイレント (Do Not Disturb)] 機能が有効になっているとき、着信コールがあった場合に実行するアクションを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)] > [サイレント (Do Not Disturb)] を選択し、[[サイレント]を有効にする (Enable Do Not Disturb)] チェックボックスをオンにします。

設定	説明	手順
ロケール	作業とネットワークでサポートする時間と言語のロケールを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)] > [ロケール (Locale)] を選択し、[ユーザロケール (User Locale)] ドロップダウンリストから場所を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
保留音	保留にしたときに再生される音楽のソースを選択します。	[電話の設定 (Phone Settings)] > [保留音 (Music On Hold)] を選択し、コールを保留にしたときに再生する音源を [ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)] ドロップダウンリストから選択して、[保存 (Save)] をクリックします。
その他	次のオプションを有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• スピーカーフォン</li> <li>• スピーカーフォンとヘッドセット</li> <li>• ビデオ</li> <li>• PC ポートの使用</li> <li>• エクステンション モビリティ</li> </ul>	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、各オプションのチェック ボックスを必要に応じてオンまたはオフにして [保存 (Save)] をクリックします。

## 回線の設定

次の表に、選択した電話またはプロフィールの各回線で使用可能な回線の設定を示します。

表 6: 回線の設定

設定	説明	手順
コール転送	デフォルトのコール転送オプションを設定します。 外部または内部の着信コールの転送をカスタマイズします。	[回線の設定 (Line Settings)] を選択し、 [コール転送 (Call Forward)]、[発信者ID (Caller ID)]、[通知 (Notification)]、または [保留音 (Music On Hold)] を選択して更新し、 [保存 (Save)] をクリックします。
発信者 ID	発信者 ID オプションを設定します。	
通知	着信コールとメッセージの通知のオーディオおよび ビジュアル オプションを設定します。	
保留音	コールを保留にしたときに再生される音楽のソース を選択します。	

## ユーザ設定

使用可能な [ユーザ設定 (User Settings)] のオプションを、次のリストで説明します。

表 7: ユーザ設定

設定	説明	手順
情報	名前を更新します。 自分の電子メール アドレスを入力します。 プライマリ Phone を選択します。	[ユーザ設定 (User Settings)] を選択し、 [情報 (Information)]、[パスワード (Password)]、または [暗証番号 (PIN)] を選択して更新し、 [保存 (Save)] をクリックします。
パスワード	パスワードを更新します。	
PIN	暗証番号を更新します。	

## 共通 Self-Care タスク

次の表に、ユーザが実行できるすべての共通 Self-Care タスクを示します。

表 8 : 共通 Self-Care タスク

タスク	手順
パスワードを変更する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [パスワード (Passwords)] を選択します。
暗証番号を変更する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [暗証番号 (PIN)] を選択します。  (注) 電話とボイスメールの暗証番号を変更できます。電話の暗証番号は、Cisco Unified Communications Manager (またはエクステンション モビリティの) の暗証番号をリセットし、ボイスメールは Unity Connection の暗証番号をリセットします。
スピーカーフォンの使用を無効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[スピーカフォンの無効化 (Disable Speakerphone)] チェックボックスをオンにします。
エクステンションモビリティを有効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[Ciscoエクステンションモビリティ (Cisco Extension Mobility)] チェックボックスをオンにします。
ビデオ コールを有効にする	[電話の設定 (Phone Settings)] > [その他 (Others)] を選択し、[ビデオを有効にする (Enable Video)] チェックボックスをオンにします。
コールを転送する	[回線の設定 (Line Settings)] > [コール転送 (Call Forward)] を選択し、着信コールを転送するオプションを設定します。
電子メール情報を提供する	[ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、電子メール アドレスを入力します。
プライマリ デバイスとして異なる電話を選択します。	[ユーザ設定 (User Settings)] > [情報 (Information)] を選択し、[プライマリデバイス (Primary Device)] ドロップダウン リストから優先デバイスを選択します。
コールおよびメッセージ通知を選択する	[回線の設定 (Line Settings)] > [通知 (Notification)] を選択し、着信コールとメッセージの通知オプションを選択します。
コール保留音のソースを選択する	[電話の設定 (Phone Settings)] > [保留音 (Music On Hold)] を選択し、ユーザまたはネットワークによってコールが保留にされたときに使用する音源を選択します。

## シングルナンバー リーチの設定

シングルナンバー リーチ機能では、別の電話番号とビジネス IP 電話番号を関連付けることができます。ビジネス電話番号にコールが着信すると、そのコールは Cisco Prime Collaboration Provisioning によって自動転送され、ビジネス電話機と指定された電話機が鳴ります。このような方法で、シングルナンバー リーチ機能により、受信者の場所にかかわらず、発信者は単一の番号をダイヤルして受信者に電話をかけることができます。

シングルナンバー リーチ用の代替番号を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** 電話カルーセルで、リモート接続先プロファイルに関連付けられているアイコンを選択します。
- ステップ 2** [シングルナンバー リーチの設定 (Single Number Reach Settings)] > を選択します。
- ステップ 3** [表 9: シングルナンバー リーチのフィールドの説明, \(65 ページ\)](#) の表の説明のとおり情報を指定し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** 必要に応じて、[新規追加 (Add New)] をクリックして別の代替番号を追加します。

表 9: シングルナンバー リーチのフィールドの説明

フィールド	説明
[代替番号 (Alternate Number)]	プライマリ電話でコールを受信したときに、Cisco Prime Collaboration Provision がそのコールを転送する代替番号を入力します。
[説明 (Description)]	(オプション) 代替番号の説明を入力します。
[リーチミーエニウェアを有効にする (Enable Reach Me Anywhere)]	このチェックボックスをオンにすると、着信コールで複数の電話機が同時に鳴ります。
[これはモバイルデバイスです (This is a mobile device)]	モバイルデバイス用の代替番号の場合は、このチェックボックスをオンにします。
[代替番号を呼び出し始めるまでの時間: 秒 (Allow me ... seconds to answer)]	プライマリ電話でコールが応答されるまで Cisco Prime Collaboration Provision が待機する時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。この時間が経過すると、コールは代替番号に転送されます。
[代替番号を呼び出し続ける時間: 秒 (Continue ringing the alternate number for ... seconds)]	Cisco Prime Collaboration Provision が代替番号の呼び出し音を鳴らす時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。

フィールド	説明
[コールを代替番号に接続しないようにする猶予時間: 秒 (If the alternate number answers within ... seconds)]	代替デバイスにコールを転送した後、そのデバイスにコールを接続するまで Cisco Prime Collaboration Provision が待機する時間の長さを入力します (1/10 秒単位)。この待機時間を設定すると、コールによってボイス メールなどの自動応答がデバイス上で開始されないように防止することができます。
[回線の関連付け情報 (Line Association Information) ]	この代替番号に関連付ける回線のチェックボックスをオンにします。

## Self-Care ユーザ移行スクリプト

SelfCareMigrationUtility は、移行中または CLI から移行後に起動できます。このツールは、CreateSelfCareAccounts ルールおよび DefaultCUPMPasssword ルールセットを持つドメイン内のすべてのユーザを処理します。

移行の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Upgrade and Migration Guide](#)』を参照してください。



## 第 7 章

# バッチ プロビジョニング

---

- ・ [バッチプロジェクトの管理, 67 ページ](#)

## バッチ プロジェクトの管理

バッチプロビジョニングサポートは、Unified Communications Manager、Unity Connection、Unity、Presence Processor、Unity Express、Call Manager Express、および Generic IOS Router のすべてのデバイスに提供されています。管理権限を持つユーザは、バッチプロビジョニングを使用してデバイスをプロビジョニングできます。

すべてのデバイスのサンプルバッチファイルは、`opt/cupm/sep/ipt/config/sample/batchProvisioning` ディレクトリにあります。

バッチ操作ファイルを作成したら、そのファイルが属するバッチプロジェクトを作成する必要があります。バッチ操作ファイルをアップロードすると、その内容がバッチ操作に変換され、バッチ操作ファイル内のすべてのバッチ操作に共通するカラムが表示されます。

バッチ操作ファイルは、バッチ操作間の依存関係に従って正しい順序でアップロードする必要があります。

バッチプロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ 1** [拡張プロビジョニング (Advanced Provisioning)] > [バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] をクリックして新しいプロジェクトを作成します。
- ステップ 3** [バッチプロジェクトの新規作成 (New Batch Project)] ウィンドウで、名前と説明を入力し、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** バッチプロジェクトの選択後に表示される [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] 画面で、[バッチ操作の追加 (Add Batch Actions)] をクリックします。
- ステップ 5** [バッチ操作の追加 (Add Batch Actions)] で目的のファイル名を選択し、[プロジェクトに追加 (Add to Project)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれか、または複数の操作を行います。
- バッチプロジェクトをただちに実行するか、後で実行するためのスケジュールを行います。バッチプロジェクトでの編集、コピー、削除、キャンセル、エクスポート、その他の操作については、次の表を参照してください。
  - バッチプロジェクトを後で実行するためにスケジュールします。

不要になったバッチプロジェクトまたはバッチ操作は削除可能です。バッチプロジェクトまたはバッチ操作を削除するには、プロジェクトまたはバッチ操作を選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。

一時停止状態のバッチプロジェクトの操作を再開することができます。これを行うには、[再開 (Resume)] アイコンをクリックします。

[バッチプロビジョニング (Batch Provisioning)] ページの右上隅にある [バッチヘルプ (Batch Help)] アイコンをクリックします。バッチ処理のヘルプリンクが新しいタブで開き、さまざまなサービスの属性と説明とともに、すべてのバッチ操作を示すテーブルが表示されます。

**表 10: バッチプロジェクトの管理**

バッチ操作	手順
バッチプロジェクトをただちに実行する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [すべてのプロジェクト (All Projects)] ペインでバッチプロジェクトを選択します。</li> <li>2 [バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックします。</li> </ol>



バッチ操作	手順
バッチプロジェクトをスケジュールまたはスケジュール変更する	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="964 310 1518 384">1 [すべてのプロジェクト (All Projects)] ペインでバッチ プロジェクトを選択します。</li> <li data-bbox="964 405 1518 636">2 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで [カレンダー (Calendar)] アイコンをクリックします。  表示されるカレンダー ダイアログボックスで日付と時間を指定して、[OK] をクリックします。</li> <li data-bbox="964 657 1518 951">3 確認メッセージ ボックスで、[はい (Yes)] をクリックし、バッチ プロジェクトのスケジュールを設定または必要に応じてスケジュールを再設定します。  (注) インフラストラクチャ設定用に作成されたバッチプロジェクトは、エラーがあると再起動できません。</li> <li data-bbox="964 972 1518 1035">4 [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックしてバッチ プロジェクトを実行します。</li> </ol>
スケジュールされたバッチプロジェクトをキャンセルする	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="964 1098 1518 1171">1 [すべてのプロジェクト (All Projects)] ペインでバッチ プロジェクトを選択します。</li> <li data-bbox="964 1192 1518 1339">2 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで、[カレンダー (Calendar)] アイコンの隣にある [クリア (Clear)] ボタンをクリックします。</li> <li data-bbox="964 1360 1518 1392">3 [はい (Yes)] をクリックして確定します。</li> </ol> <p data-bbox="964 1423 1518 1528">スケジュールしたバッチプロジェクトは、まだ処理が開始されていない場合、キャンセルできます。</p>

バッチ操作	手順
バッチ プロジェクトを停止する	<p>一時停止状態および進行中状態のバッチ プロジェクトの停止することができます。手順は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [すべてのプロジェクト (All Projects) ] ペインで対象のバッチ プロジェクトを選択し、そのステータスを確認します。</li> <li>2 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] ページで [停止 (Stop) ] をクリックするとバッチ プロジェクトが停止します。</li> </ol>
バッチ操作の詳細を表示する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [すべてのプロジェクト (All Projects) ] ペインでバッチ プロジェクトを選択します。</li> <li>2 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project) ] ページで、詳細を表示するバッチ操作の [クイック ビュー (Quick View) ] にカーソルを置きます。</li> </ol> <p>[バッチ操作の詳細 (Batch Action Details) ] ペインに、ステータスとログを含むバッチプロジェクト操作の設定情報がすべて表示されます。</p> <p>バッチプロビジョニングでは、ユーザ権限を持つユーザは、エンドポイントのオーダー中に新しいエンドポイントを追加できます。疑似ユーザもエンドポイントに追加可能です。</p>

バッチ操作	手順
<p>バッチプロジェクトとバッチ操作ファイルを編集する</p>	<p>バッチプロジェクトを編集するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [全てのプロジェクト (All Projects)] をクリックします。</li> <li>2 画面の右側に表示されたリストからバッチプロジェクトを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。</li> <li>3 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ウィンドウで、[バッチ操作の追加 (Add Batch Actions)] をクリックします。バッチ操作ファイルを選択し、[プロジェクトに追加 (Add to Project)] をクリックします。指定したバッチプロジェクトに新しいバッチ操作ファイルが追加されます。</li> </ol> <p>バッチ操作ファイルを編集するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [すべてのプロジェクト (All Projects)] ペインで対象のバッチプロジェクトを選択します。</li> <li>2 [バッチ プロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ウィンドウで、必要なアクションを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。</li> <li>3 [バッチ操作の編集 (Edit Batch Action)] ウィンドウで、[新しい属性の追加 (Add New Attribute)] をクリックして処理ファイルに新しい属性を追加するか、[編集 (Edit)] アイコンをクリックして任意の既存の属性の値を編集します。[保存 (Save)] をクリックします。</li> </ol> <p>(注) 一度に 1 つのバッチ操作のみを編集できます。</p>

バッチ操作	手順
バッチ プロジェクトをバッチ操作とともにコピーする	<p>バッチ プロジェクトをコピーする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 バッチ プロジェクトを選択し、[コピー (Copy)] をクリックしてバッチ処理とともにバッチ プロジェクトをコピーします。</li> <li>2 [バッチ プロジェクトのコピー (Copy Batch Project)] ウィンドウで、必要に応じて説明を入力し、自動入力されたバッチ プロジェクト名を変更して、[追加 (Add)] をクリックします。既存のバッチ プロジェクトのコピーとともにバッチ操作ファイルが作成され、バッチプロジェクトのステータスには[スケジュールされていません (Not Scheduled)]、バッチ操作のステータスには[開始されていません (Not Started)]と表示されます。</li> </ol> <p>バッチ操作をコピーする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 バッチ操作を選択し、右ペインの展開アイコンをクリックします。</li> <li>2 [操作のコピー (Copy Action(s))] をクリックします。</li> </ol>
バッチ プロジェクトをエクスポートする	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [すべてのプロジェクト (All Projects)] をクリックし、右ペインでバッチ プロジェクトを選択します。</li> <li>2 右ペインの展開アイコンをクリックし、[エクスポート (Export)] をクリックします。選択したプロジェクトのすべてのバッチ操作がテキスト ファイルにコピーされます。</li> </ol> <p>(注) 一度に 1 つのプロジェクトのみをエクスポートできます。</p>

バッチ操作	手順
バッチプロジェクトの現在のステータスを表示する	<p>[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページで、[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions)] ペインに各バッチプロジェクト操作のステータスが表示されます。</p> <p>特定の状態 ([処理中 (In Progress)], [完了 (Completed)] など) にあるオーダーを表示するには、バッチプロジェクトを選択し、[バッチプロジェクト操作 (Batch Project Actions)] ペインでフィルタを選択します。</p> <p>バッチプロジェクトが完了した後、ユーザのユーザレコードをチェックして、オーダーが処理されたことも確認できます。</p> <p>また、管理者は、バッチプロジェクトで現在実行されている単一オーダーの詳細を確認するために、[マイアクティビティ (My Activities)] を使用してワークフローにおける各オーダーの実行状況を表示できます ([アクティビティ (Activities)] &gt; [マイアクティビティ (My Activities)] を選択)。</p>

## トラブルシューティング

### 問題

[バッチプロジェクトの設定 (Configure a Batch Project)] ページのすべてのボタンが無効になっている場合、バッチプロジェクトが次のいずれかの状態である可能性があります。

- 進行中 (In Progress)
- 停止 (Stopped)
- 一時停止 (Paused)

### 推奨処置

バッチプロジェクトの状態によって、次のように操作します。

- 進行中：プロジェクトが完了するまで待機します。
- 停止：新しいバッチプロジェクトを作成するか、または停止されたバッチプロジェクトをコピーして続行します。
- 一時停止：一時停止されたバッチプロジェクトを停止または再開します。

### 問題

バッチ操作が完了するか失敗した場合、それを編集できません。

### 推奨処置

バッチ操作をコピーしてから編集できます。